

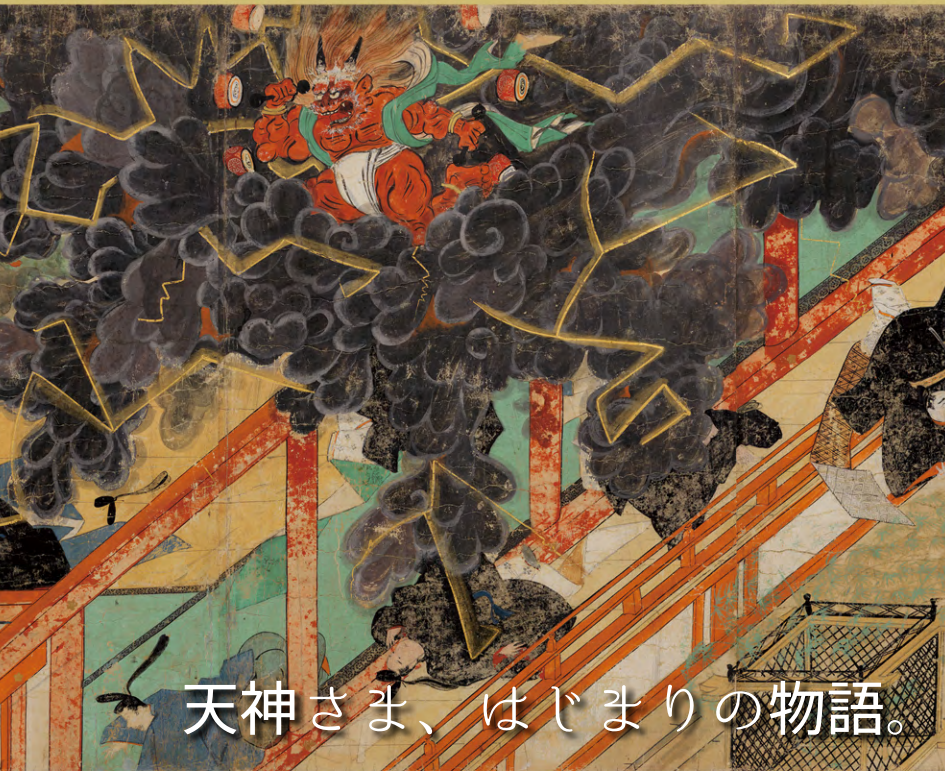


# 天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

- ◆ 菅公の祥月命日 梅花祭、巖かに齋行  
— 今年も皇后陛下の御代拝、宮内庁京都事務所長が参向
- ◆ 天神さまと私 — 京都国立博物館館長 松本伸之さん
- ◆ 特別展「北野天神」が京都国立博物館で開幕



天神さま、はじまりの物語。



御神忌 千百二十五年  
半萬燈祭

令和9年 | 2027

未来へつなぐ誠の心

日本文化の中心地 京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

## 北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」「北野天満宮天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるところに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築の中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与え続けています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



【シンボルマーク】  
平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚してきた。

表紙写真 一 国宝「北野天神縁起絵巻」承久本 一

菅公御神忌1125年半萬燈祭記念事業として、京都国立博物館にて4月18日より公開されている特別展「北野天神」にて「北野天神縁起絵巻」承久本を公開。鎌倉時代に製作されたこの絵巻は、数ある天神縁起絵巻の中で最も古く、「根本縁起」とも称される。今回の特別展では、史上初めて、全九巻・全場面を公開する。



## 御挨拶



国宝の御本殿を守るため、改修された防災設備

謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄、氏子崇敬者の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

去る四月八日、千百二十五年半萬燈祭記念事業の一つとして、兼ねてから進めておりました境内防災防犯設備工事が、約三年の月日をかけて完了しました。この度の境内整備事業は、昨今の社会状況や自然環境が日々変化し、国内外問わず、世界遺産や歴史的文化財の保全・維持管理が困難になる中、先人より受け継いできた当宮の境内と文化財を未来に継承していくため、式年大祭を契機に新たに整備したものであります。（仔細は本文二十三頁）その他、摂末社の社殿修繕事業も概ね完了し、残すところは、北野祭復興の中核となる「北野神輿」再興と「神輿庫」新設となり、いずれも有識者の各先生方のご尽力のもと順調に進捗している次第でございます。

同じく四月十八日からは、令和九年の半萬燈祭記念行事の先陣を切る特別展「北野天神」を京都国立博物館にて開幕いたしました。当宮、京都国立博物館、読売新聞大阪本社の三社が主催となり、全国天満宮梅風会の特別協力のもと、天神信仰ゆかりの全国各地の社寺、関係各所のお力添えを賜りましたことに、改めて御礼を申し上げる次第でございます。「天神さま、はじまりの物語。」をテーマに、天神信仰の源流を具現化する二十五年に一度に相応しい展覧会であります。全国天満宮梅風会として京都を皮切りに、趣向を変えながら東京と九州、三国立博物館にて引き続き展開していく記念の展覧会であり、多くの皆様に天神信仰の奥深さをご覧頂ければ幸いです。

さて、半萬燈祭までいよいよ一年を切りました。令和九年三月二十五日に斎行する「千百二十五年大祭」を中心に、天神信仰ゆかりの神事と奉納行事を連日展開いたします。（同封パンフレット参照）また同年九月には、かつての勅祭「北野祭」ゆかりの神幸祭・還幸祭を再興し、「北野神輿」を復興いたします。その他にも様々な行事・プロジェクトが進捗しており、これらの一連の記念事業を通じて、御祭神の御心に今一度想いを致し、千有余年に亘る天神信仰と菅公精神を次世代に継承して参りたく存じます。引き続き、ご崇敬厚き皆様には、倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

令和八年五月吉日

北野天満宮

宮司 橘 重十九

# 菅公の祥月命日 梅花祭、巖かに齋行

## 今年も皇后陛下の御代拝、宮内庁京都事務所長が参向

〔菅公御歌〕

東風吹かば 白いおこせよ 梅の花  
主なしとて 春を忘るな  
美しや 紅の色なる 梅の花  
あこが顔にも つけたくぞある

梅花をこよなく愛された御祭神菅原道真公の祥月命日に当たる二月二十五日、御本殿において午前十時から梅花祭を齋行し、御祭神の御遺徳を偲び、御神慮を景仰申し上げた。今年も貞明皇后行啓の古例に倣い皇后陛下の御代拝として宮内庁京都事務所長が参向され、御神前に拝礼された。

右大臣の位にあった菅公は、左大臣藤原時平の讒言によって大宰府に左遷され、延喜三年（九〇三）二月二十五日、失意のうちに薨去される。梅花祭は、御祭神の御遺徳を偲ぶ重要祭典であり、天仁二年（一一〇九）二月二十五日には鳥羽天皇の勅によって齋行されている。

御本殿には菅公に随行して大宰府に赴き、菅公薨去の後御自作の木像を奉じて京へ帰り、代々当宮の神事に携わってきた西ノ京神人の末裔・七保会の会員や門前町の上七軒歌舞会の代表らが参列する中、祭典が始まった。まず七保会の会員が前日、精進潔齋の上、四斗の蒸した



皇后陛下御代拝 拝礼（宮内庁京都事務所 武田誠司事務所長）



梅花献饌



奉幣ノ儀（七保会 神部正三宰領奉仕）





宮司 祝詞奏上



特殊神饌「梅花御供」

米を大小二つの台に盛り付けた「大飯」「小飯」と称する「梅花御供」と、玄米を入れた仙花紙の容器に男女の厄年にちなんで白梅を挿した四十二組と紅梅を挿した三十二組の「紙立」と呼ばれる二種の特殊神饌を神職が奉饌した。なお、使われた玄米は、古くから厄除け玄米として参拝者に授与されている。

七保会宰領の神部正三氏が奉幣の儀を行った後、宮司が祝詞を奏上。次に神部氏、上七軒歌舞会の晴間進会長らが玉串拝礼し御祭神の御遺徳を偲んだ。

次に皇后陛下の御代拝として宮内庁京都事務所の武田誠司所長が御本殿に参進され、御神前において御拝礼された。皇后陛下の御代拝が参向されての祭典は全国的にも珍しいもので、皇室と当宮のご縁を物語るものである。

御本殿の祭典が終わった後、引き続き西ノ京神人と深い関わりをもつ末社一之保社でも梅花祭を斎行し、一連の神事を厳かに執り納めた。

この日、神職は、冠に菜の花をつけて奉仕したが、これは菜種が宥めるに通じるからとされている。

✿ 上七軒の芸舞妓による献茶ノ儀

梅花祭の祭典に先立ち、この日朝、西廻廊において上七軒の芸妓ふじ千代さんと舞妓さと葉さんが御本殿と豊臣秀吉公をお祀りする末社豊国神社に供えるお茶を点てる献茶ノ儀が行なわれた。また、和歌の神として信仰される菅公にあやかり、今年も芸舞妓一人ひとりが梅花祭に思いを馳せた俳句を詠み、俳句を書いた短冊が御神前に奉納された。(上七軒芸舞妓の献句は三十九ページに掲載)



末社一之保神社 巡拝



豊国神社献饌



梅花御供（大飯・小飯）献饌



野点大茶湯



御本殿西廻廊にて献茶ノ儀 齋行（上七軒歌舞会）

雨の中、「梅花祭野点大茶湯」賑わう  
 芸舞妓のお点前で一服を楽しむ外国人も多く

この日は生憎の雨となったが、テントを張った紅梅殿船出の庭では、恒例の「梅花祭野点大茶湯」が催され、上七軒歌舞会の芸舞妓らのお点前で一服を楽しむ参拝者で終日賑わった。

豊臣秀吉公が天正十五年（一五八七）に当宮境内で開いた「北野大茶湯」の故事にちなむ催しで、千五十年大萬燈祭齋行の昭和二十七年以来毎年行われている。上七軒歌舞会の協賛によって芸舞妓や女将が総出で奉仕することが人気を呼び、梅花祭の呼び物となっている。

行列による混乱を避けるため今年も文道会館のホールを待合室としたが、それでも会館外に長い行列が出来るほどの賑わいだっただ。

テント内に設けられた座礼席と椅子席には「雨の中、ようこそ」との芸舞妓の挨拶を受け次々参拝者が座り、一服を楽しんだ。周囲の梅は見頃を迎え、大阪から来たという女性は「昨年はまだ咲き初めだったのに今年は盛り。幸運でした」と喜んでいた。

外国人の姿も大変多く国際色豊かな野点の茶席風景を見せ、一歳半の娘を伴って椅子席に座ったカナダ人の夫妻は「素晴らしい」と、感想を述べた。



海外からも大勢が参加



上七軒歌舞会によるお点前

# 大本山大覚寺で菅公慶讃法会を厳修 寺号勅許に功績のあった菅公を称え



菅公慶讃法会勤修

当宮と深いご縁のある真言宗大覚寺派大本山大覚寺（京都市右京区）で四月十四日、菅原道真公慶讃法会が勤修された。同寺の寺号勅許千五百年法会の一環で、大覚寺の誕生に際し功績のあった菅公を称えての法会で、来年迎える当宮の菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭に花を添えていただく法会となった。

大覚寺は嵯峨天皇の離宮だったが、貞観十八年（八七六）、皇孫である恒寂入道親王を開山として大覚寺となった。開創に当たっては、清和天皇に上奏文が出されているが、その文を起草されたのが菅公であり、菅公の文才を改めて得心するとともに千百年以上も続く両社寺の交流の発端を伺うものとなった。

ご縁を裏付けるように同寺の大沢池（国指定名勝）の島には、天神社が祀られ、島の名も天神島と呼ばれている。約七百年前に焼失したとされる陸と島を繋ぐ橋（名古曾橋）を同寺が一昨年二月に再建した際には、当宮からも神職・巫女が出仕して、竣工の神事と法会が営まれている。

同寺の寺号勅許（開創）千五十年記念法会は、四月十二日から八日間にわたって行われ、この日の菅公慶讃法会は三日目。心経前殿（御影堂）に約百人の信者が参列する中、大覚寺門跡の山川龍舟大僧正の導師のもと多くの式衆の僧侶の読経が続いた。当宮権宮司が焼香した後、焼香台は一般参列席に回され、参列者が次々焼香した。



名古曾橋竣工清祓式の様子（令和六年二月五日）



山川龍舟大僧正以下式衆による読経



# 梅風祭を齋行 梅風講社の益々の発展と崇敬者の息災祈願 八乙女、御本殿と中庭で鈴舞奉納



御本殿前中庭にて八乙女舞奉納

崇敬者で組織されている梅風講社（小石原満講社長）の祭典、梅風祭を三月二十二日午後三時半から御本殿にて多数の講員が参列される中、齋行した。

梅風講社は多数あつた崇敬者団体である天神講をまとめる形で明治八年に結成された崇敬者組織。大晦日の火縄授与や縁日の献灯の世話など多岐にわたる奉仕を今日までされている。十月齋行の北野祭に奉仕する八乙女や稚児の選出も講社の大切な役割の一つ。梅風祭は、そんな講社の年一度の大祭である。

齋主が祝詞を奏上した後、八乙女が優雅に鈴舞を奉納した。宮司が玉串を奉奠した後、八乙女代表の菅ひまりさん、小石原講社長、氏子講社の宮階有二講社長が玉串を捧げ、参列者一同が梅風講社の更なる発展と講員各位の無病息災を祈った。

御本殿での祭典後、暈が敷かれた御本殿前の中庭でも八乙女が鈴舞を奉納した。多くの参拝者が集って舞を見守り、「かわいい」と感嘆の声を上げながらカメラやスマホをかざして見守った。

## ●令和八年八乙女奉仕者 〈八乙女舞〉

- ・令和八年三月二十二日 梅風祭
- ・令和八年四月五日 国際ロータリー第2650地区

## 〈奉仕者名〉（順不同）

- ・森田 桜さん ・菅 ひまりさん ・菅 きほりさん
- ・川島 采唯さん ・霜野 小榛さん ・吉田 旺葵さん
- ・小川 沙織さん ・藤 唯花さん



北野祭八乙女行列

# 国際ロータリー 第2650地区大会

## 八乙女が国立京都国際会館で舞を披露 ロータリアンを神秘的な舞の世界に誘う



八乙女舞鈴舞奉奏

北野祭（十月）や梅風祭（三月）で舞を奉納する八乙女が四月五日、国立京都国際会館で舞を披露した。国際ロータリー第2650地区の2025―26年度地区大会（ガバナー 小崎学氏）における歓迎公演で、金剛流による半能「右近」と共に公演、多くのロータリアンを神秘的な舞の世界に誘った。

本大会は、国際ロータリー会長の「良い子のために手を取り合おう」のテーマに呼応し、小崎ガバナー主導のもと「未来へつなぐ」を地区スローガンに掲げると共に、鵬雲斎宗匠RI元理事様がその御生涯を通じて極められた「一碗

のお茶・茶の湯」という職業や文化の立場から、世界平和を心より願われた情熱に想いを込めた企画として開催されたもので、本会議直前の歓迎公演として、当宮の八乙女舞の披露となった。

八人の少女からなる八乙女は、当宮独特のもので、慶長年間の古文書にはその名が見られるが、発祥の経緯などについてはわかっていない。しかし、菅公の御神霊を慰めるものとして舞われ続けてきたことは間違いない。

昨年三月の梅風祭の折、新潟県柏崎市の山里で約五百年前から伝承されてい



小石原満梅風講社長はじめ八乙女並びに保護者

る古雅な民俗芸能・綾子舞の一行が来社、八乙女と共に舞を奉納した。「綾子舞は、北野天満宮の巫女文字の舞を伝えたもの」とする説が伝えられており、五百年の時を超えた「里帰り奉納」として話題を呼んだ。文字は、当宮創建に際し託宣が下された巫女であり、北野祭の折に御神輿の綱の先を八乙女と思われる女性が曳いて歩いている絵図も残っている、などの点から見ても「文字に始まる当宮における巫女奉仕の伝統が伺える」とする見方もされている。

舞台上に巫女装束に檜扇を手にし、おすべらかしの髪を花で飾った八乙女が登場すると、「古代から受け

継がれた八乙女舞は、時代とともに形を変え、現在では神への感謝や祈りを込めて奉納される神聖な舞として伝えられています」などの説明のアナウンスも行われた。

神職と巫女による生演奏に合わせ八人の八乙女が優雅におなじみの「鈴舞」を舞い、会場から盛んな拍手がおくられた。

会場の一角で見守っていた梅風講社の小石原満講社長は「八乙女が本社と御旅所のほかで舞うのは初めてのことです、感動しました」と話された。



金剛流による半能「右近」



京都国立博物館館長 松本伸之 さん



今号は、京都国立博物館館長の松本伸之さんをお迎えし、同館で開催される「北野天神展」を中心にして京都文化論などについて宮司と話し合ってもらいました。

(構成・編集部)

**宮司** 来年迎える菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭を記念する特別展『北野天神展』が、四月十八日から六月十四日まで京都国立博物館で開催されることになり大変喜んでいきます。そこに展示される国宝『北野天神縁起絵巻』(承久本)は、千百年祭の折でも四巻のみの公開でしたが、今回初めて期間中の全巻展示となりました。まずこれについての思いをお聞きます。

### ― 国宝『北野天神縁起絵巻』(承久本)の全巻公開は画期的 ―

**松本** 国宝『北野天神縁起絵巻』いわゆる承久本の全九巻を会期中に公開させて頂くことは画期的なことだと思っています。承久本は、たくさんある『北野天神縁起絵巻』の中では最古のもので、天地の幅五十二センチ、しかも全九巻を広げると八十メートルもの長さになります。そんな長尺な絵巻物を一部並び替えがあると、期間中にすべてご覧頂けるわけで、今回の『北野天神展』の目玉となることは間違いありません。また、現時点で『北野天神縁起絵巻』は六十点近くあることがわかっており、そのう

ちから十点を合わせて展示することにしており、『北野天神縁起絵巻』の集大成という位置づけもできます。

**宮司** 承久本の魅力や鑑賞のあり方についてもお聞きします。

**松本** 承久本は、絵巻物として見た場合、鎌倉初期の非常にすぐれた絵巻物の一つです。縁起絵巻の中でも恐らく『信貴山縁起絵巻』とか『粉河寺縁起絵巻』(いずれも国宝)に次ぐような大変古い作例の一つであり、しかも鎌倉初期という世の中がダイナミックに動いている時の絵巻です。描写についても実に生き生きと細緻で丁寧を描いておりながら、有名な場面、例えば清涼殿の落雷の場面など、ちよつとユーモラスで躍動感があります。場面場面で非常に見どころの詰まった絵巻なのでじっくりご覧頂けたらと思います。

**宮司** 実は、北野天満宮に奉職以来、この承久本を見ていて疑問に思っていることがあります。菅公とは関係のない六道巡りのことなどがなぜ入っているのか？ 実は二十数年前、御本殿の中から偶然に十三体の憤怒の顔をした鬼神像が見つかり、即重文に指定されましたが、平安時代に京の辻々に祀られ、攻め来る悪霊を祓ったといわれており、天満宮には色んな信仰があり、自分自身を何となく納得させました。

**松本** 宮司さんが仰られるのは七、八巻ですね。六巻までは菅公の幼少期から左遷されて北野社創建までが描かれているのに、急に六道めぐりです。何故か？ 疑問に思われるのは当然ですが、実は謎だらけの絵巻物なのです。制作年こそ承久元年(一一一九)といわれていますが、絵の作者についても色々言われていますけどわからない。詞書も何種類か書き分けてありますけど実際に誰が書いたのかわからない。さらに第九巻は言葉は何も書かず白描の断簡として残っており、こうした状況から見れば絵巻は未完成であったのかもしれませんが、不思議なところが多々ある絵巻物でありながら鎌倉初期の見事な描写が随所に見られます。興味を持たれた方、謎に迫ってみてください。

**宮司** ありがとうございます。『北野天神展』全体についても鑑賞のあり方など、お話し下さい。

### 『北野天神展』は三章構成

**松本** 今回の『北野天神展』は、大きく分けて三章構成です。天神さんの信仰、北野天満宮の歴史、北野天満宮と文化・芸能の関わりです。新たな視点を入れて構成していますのでご期待下さい。菅公に対する多様な信仰がわかって頂けます。大宰府で亡くなられた後、都に色んな祟りをなす、そこで怨霊信仰が起こり、それがやがて善神とされる。学問の神さまでだけが強調されますが、怨霊神であったり、平安京の守護神であったり、武の神さまであったり、さらに近世以降、北野社・北野天満宮というのは阿国歌舞伎の発祥地であったり、能の舞台になったりして芸能の神としての信仰など、多様な面があることも今回の展覧会で知って頂けると思っています。いろんな場面で北野社は京都の中でも大変重要な場所だったことが伺えます。

**宮司** 多様な天神信仰についてお話し頂き、ありがとうございます。今回の展覧会「天神さま、はじまりの物語」というサブタイトルは大変気に入っております。多くの方が来館されることを願っています。今や菅公を祀る天神さんは、全国に一万二千社を数えるまでになっています。人を神として祀った神社としては異例の多さです。ひとえに菅公の魅力によるものだと思います。菅公は、和魂漢



才の精神で、誠の心をもつて学問や教育をされ、何よりも漢詩の達人でした。和魂というのには、古代の縄文人から受け継がれている美的感受性であり、日本人の心です。漢才は、外国の進んだ文化や信仰です。中国から進んだ文化はどんどん取り入れながら日本人の心は失ってはならない、という教えです。そして忘れてならないのが菅公を重用された宇多天皇との関係です。宇多天皇との緊密さは仁和寺に入られてからも続いており、お二方で平安文化即ち国風文化の礎を築かれました。

### 菅公は高レベルなマルチ人間

**松本** 菅公は、国際感覚と政治感覚、さらには学問・芸術感覚などを兼ね備えられた人だった。今風にいえばマルチ人間です。しかもそのレベルは非常に高かった。我々は専門分野のことは極めたとしても他のことは知りません。しかし、多方面に通じ『類聚国史』のようなものまで仕上げられる菅公は、普通という偉人以上の人だったと思います。さらにこれだけの信仰の広がりを見ていくと、どこか人間臭く親しみやすさみたいなところを持たれた方であったのではないかと。そんな気がします。私は東京生まれで、亀戸天神や湯島天神に受験の度にお参りしましたが「天神さんて何だろう？」と、思いながらお参りしていた記憶があります。ある意味で非常に身近であり、昔の人でありながら今に生きておられるような感覚が



あります。ただ、私自身は歴史や文学などの専門家ではなく美術史学という分野なので、そんな観点から菅公を見た時、あれだけ中国の学問を相当なレベルまで高められた方が、なぜ遣唐使の停止を建議されたのか、興味を持ちました。

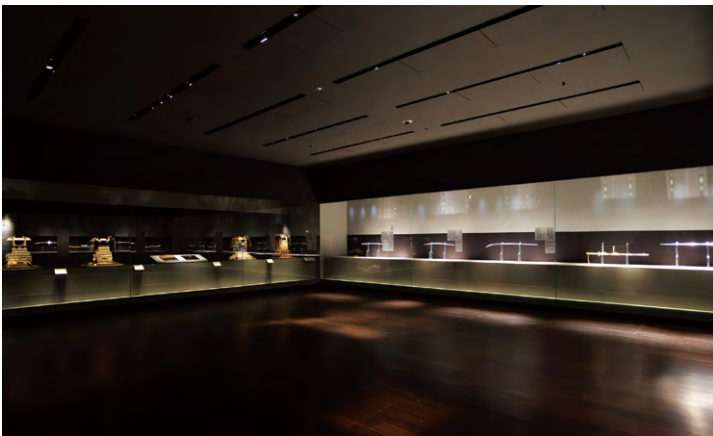
**宮司** 菅公は常に物事の根源を見極め、何事にも誠実に真摯に取り組まれたお方でした。遣唐使停止についても、諸説はあるかと思いますが、礼を尽くし、学ぶべきものは学んだ上で、自国の発展に対し、これ以上の追求は無意味であるとの考えに至り、賢明且つ最善の決断をされたわけであります。ここに前述で述べた「和魂漢才の精神」の奥深さと本質を感じることができると思えます。北野のこの場所は、平安京の天門であり、天の神々の出入り口なのです。遣唐使の安全祈願をされる場所でもありました。菅原大神が四十年かかって九八七年に一條天皇によって官幣に預かり、天神という名前を頂いたのです。ですから、先ほども申しましたが「天神さま、はじまりの物語」というタイトル、非常によいと思ったわけですね。

**松本** 恐れいります。

**宮司** 先ほど御本殿内から平安時代の鬼神像が出てきたという話をしましたが、武神の信仰もあって多くの刀剣類が奉納されています。その中では源氏



太刀「髭切」「膝丸」両刀の展示



武神の信仰を物語る「北野天神」展覧会の様子

の重宝として伝来した「鬼切丸」（別名髭切）Ⅱ重文Ⅱもあります。大覚寺さんは兄弟刀の「薄緑」（別名膝丸）Ⅱ重文Ⅱを所持されています。懇意にしていますので、時折特別展を開きますが、刀剣ブームにつれて若い女性らが詰めかけ、大変な人気です。

**松本** 両刀とも今回の展覧会では展示します。

**宮司** それはよかったです。さて、先生は学芸員一本で来られたと伺っていますが、この道を志された切っ掛けは何でしょうか。

**松本** 今は学芸員ですが、元々は今でいうオタクで、中学の頃から京都や奈良の神社仏閣を一人で回っていました。大学で国史にするか国文学にするか悩んでいるうちに、今でいう美術史、美術・芸術・文化の歴史の方が合っていると思つて美術史学を専攻し、その流れで博物館界に入りました。

**宮司** 専門は中国彫刻史・工芸史と伺っていますが……。

**松本** 先ほども言いましたように中学時代から京都・奈良の神社・仏閣を回り日本の伝統文化に興味を持っていました。が、それにも関わらず私が最初に就職したのが大阪の小さな美術館でした。たまたまそこに中国のコレクションがたくさんあって、人脈も中国の方と繋がり、自然と中国大陸の文化に深入りし、その流れの中で中国の工芸史、彫刻史に入ったといえます。

**宮司** なるほど。京都・奈良の文化の延長線上に先生の研究があつたわけですね。さて、京都の社寺は文化財の宝庫ですが、文化都市である京都への思いをお聞かせ下さい。

### — 日本の多様性を育んだのは京都の文化 —

**松本** 京都の文化は色々な角度から言われており、一口でいうのはなかなか難しいですけど、日本文化のふるさとと言えますか、たえず指針になつてきたと思つています。文化史の観点からみますと、京都の時代千年が今に続く日本文化、あるいは日本人の心の形成に当たつて大切な期間であり、その中でも平安時代、あるいは国風文化といいますが、ものすごく多様な中身を持っています。その多様性を育んだのは京都の地です。考え方、学問の世界、実に豊かで深いものがあります。京都の文化が日本の多様性を育んできた。それが今の日本人の心に結びついたのではと思つています。



**宮司** 私は京都の出身ではありませんが、そのように言われると、京都の神社で宮司を務める身としては大変うれしいです。先日、ある座談会で、ノーベル賞受賞者に京都の出身者が多いことが話題となりました。京都の土壌の中に下地のようなものがあるのでは…という話になりました。先生のお話しを聞いていて感じるものがありました。

**松本** 日本は島国であり、外国からの征服に合わなかった。そういう地理的な条件のみならず、色々な面で醸成していく、そんな文化のあり様にふさわしい土地柄ではなかったか。その中心が京都であつたのかもしれない。

たのかもしれない。

**宮司** 先年、比叡山延暦寺とは五百五十年間途絶えていた北野御霊会を復興し、以後毎年神仏習合の祭典を続けていますし、仁和寺さんとは宇多天皇とのご縁が続いています。さて、当宮には毎年、修学旅行生を中心多くの若者が参拝します。日本の文化や伝統を担う若者たちへのメッセージをお願いします。

— 京都の伝統文化に近づき、自分の目で見て感じることに —

**松本** 先ほど来申し上げている通り、京都の文化はいわば日本の伝統文化です。伝統とか伝統文化といえば遠い昔のもの、自分たちとは関係のないものだ、と思われがちですが、連綿と続いているものなのです。若い人たちにとつても、今実際に作っているものが未来の伝統文化になる、という意識を持ち続けてほしい。京都は伝統文化であふれています。スマホで写真を撮るだけでなく近寄って自分の目で見て感じてほしいと思います。



明治古都館



平成知新館 外観

松本 伸之（まつもと のぶゆき）氏略歴

学歴	職歴
昭和五十六年三月 早稲田大学第一文学部卒業	平成 二年四月 東京国立博物館学芸部企画課展示調整室
昭和六十年三月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了	平成三年四月 東京国立博物館学芸部企画課普及室（併）総務部管理課
財団法人久保惣記念文化財団東洋美術研究所研究員	平成四年四月 東京国立博物館学芸部東洋課インド・南東アジア室
和泉市久保惣記念美術館学芸員補（財団より派遣）	平成六年四月 東京国立博物館学芸部東洋課中国美術室長
	平成八年四月 東京国立博物館事業部事業企画課長
	平成十三年四月 東京国立博物館企画部列品課長（命）東洋課中国美術室長
	平成十五年四月 東京国立博物館事業部事業企画課長
	平成十九年四月 東京国立博物館事業部長
	平成二十年四月 東京国立博物館学芸企画部長
	平成二十六年四月 京都国立博物館副館長（兼）学芸部長
	平成二十七年四月 東京国立博物館副館長・本部研究調整役（兼）学芸企画部長（兼）東京国立博物館百五十年史編纂室長
	平成二十七年七月 東京国立博物館副館長・本部研究調整役
	平成二十九年四月 奈良国立博物館館長
	令和三年四月 京都国立博物館館長

# 特別展「北野天神」が京都国立博物館で開幕

会期／令和八年（二〇二六）  
四月十八日（土）～六月十四日（日）  
会場／京都国立博物館

菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭を記念する特別展「北野天神」が、四月十八日から六月十四日までの日程で京都国立博物館において始まった。当館所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻（承久本）」など、国宝・重文五十点を含む約百四十点の宝物が展示され、初日から多くの人が訪れ、菅公のこと、多様な天神信仰の実態に見入った。

記者発表会には百人の報道陣  
館長、宮司、学芸員が見どころなど紹介  
元宝塚トップスター月城かなとさんも登壇

開幕前日の十七日、同博物館で記者発表会が行われた。約百人の報道関係者が出席し、主催者の説明に耳を傾けた。



特別展「北野天神」開会式テープカット

平安時代の貴族・政治家・文化人だった菅原道真公を祀る神社だ。京都で天神さんといえば北野天満宮だが、その全面的なご支援を頂きながら京都国立博物館、読売新聞社が総力を挙げて取り組んだ展覧会だ。百四十件の展示品のうち四割が国宝・重文という国の指定品だ。いずれも天神信仰に関わる貴重なものだが、中でも北野天満宮の起りりというか、道真公が祀られる経緯を示した国宝の『北野天神縁起絵巻（承久本）』は九巻あるが、それを一つの展覧会で全巻全場面公開するのは史上初だ。菅公、天神さんは、学問の神だけでない。詩歌の神や武の神、文化芸能の神など多様な信仰がある。今回は天神信仰の多様な側面を北野天満宮の歴史を



記者発表会（京都国立博物館講堂）

振り返りながらその実態や素晴らしい文化財の実態をご鑑賞頂く絶好の機会になる」と、挨拶された。

続いて挨拶に立った宮司が「神社は全国に八万社あるが、うち一万二千社が菅公を祀る天満宮。多くの神社が神話の神を祀っているが、菅公はこの世に実在された方」と切り出した。そして和の心を持ちながら海外の文化を取り入れられた和魂漢才の人、縄文の昔から日本人が持っている美的感性の持ち主だったとし、菅公の和歌を紹介しながら誠の心の持ち主だったことに言及し「この展覧会を通じて、菅公のこと、天神信仰のことを多くの人に知って頂ければうれしい」と、結んだ。ついで同博物館の末兼俊彦主任研究員が今回の展覧会の見どころ

について説明した。

最後は、展覧会の広報大使を務め、音声ガイドナビゲーターを務める元宝塚トップスターで女優の月城かなとさんが登壇し「まず展示数の多さに驚いた。天神信仰がどう始まり、波及したかがわかる内容で感動した」と感想を述べられた。宝塚在籍中、菅公役（「応天の門」の舞台）を務めており、「平安時代の衣装をつけた道真公の姿に見入ってしまった」と話し、さらに承久本の大きさと長い年月が経っているにも関わらず色鮮やかなことに驚き、「天神信仰の大切さを実感した」と述べられた。

会見の後、参加者は展示室に移動し、一足早く展示品を鑑賞した。



展示会場の様子

# 北野天神展の見どころ

北野文化研究所 室長 松原 史

## はじめに — 北野天満宮神宝展から北野天神展へ

菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭記念として京都国立博物館で開催される特別展「北野天神」が、四月十八日より開幕した。京都国立博物館では、二十五年前の千年祭に合わせて北野天満宮神宝展も開かれた。その際には当宮所蔵の御神宝を余すことなくお見せする初の試みとなったが、この度は当宮の御神宝を中心に据えつつも、「天神さま、はじまりの物語」という副タイトルからも分かる通り、畿内を中心にしつつも広く天神信仰そのものの成立と展開を捉え直し、展覧しようとする試みとなっている。

展示は三階から始まり二階、一階へと続く。二階は、ほぼ全ての展示ケースが「北野天神縁起絵巻」で占められ、天神信仰の厚みと広がり、天神縁起絵巻の質の高さと伝播や派生の様子を目で見て感じることが出来る空間となっている。

一階には芸能の神や武道の神としての天神様など、普段はあまり言及されない天神信仰の様々な側面が単元ごとに展示されている。特に通常高く掲げられた状態で見ることの多い大絵馬を間近で見られる迫力や、平安時代に作られた十三鬼神像や中世の狛犬を素晴らしい環境で鑑賞できるのは、京都国立博物館を会場とした特別展ならではの姿であろう。二十五年前より、さらにパワーアップして帰ってきた特別展、「北野天神」の魅力をご紹介したい。

## 第一章 天神信仰

### 天神さま、はじまりの物語

「天神さま、はじまりの物語」は、菅原道真公（菅公）の御事績の検証からはじまる。菅公の御神像に始まり、国宝の菅公遺品の数々、菅公が編纂された菅家文章等の古文書から、天神信仰の成立過程を物語る史料へと続いていく。菅公が、怨霊として畏れられる存在から、北野の地に大切に祀られ、北野天神縁起絵巻（承久本）の冒頭にある通り「玉城鎮守神」として崇敬を集める善神へと変化する過程をじっくりとご覧いただきたい。（図1）

### 神仏習合 — 天神様は十一面観音 —



図2 試みの観音と伝わる十一面観音立像 道明寺蔵  
神となった天神様は、十一面観音と本地垂迹の關係であるとされた。これは、仏教が伝来し土着していく過程において、「神道の神は仏教の仏が日本の人々を救済するために仮の姿をとって降臨したもの」であるとして、神仏を



図1 三階展示会場の様子と東帯天神像（遺教院本）



同一視した神仏習合の思想によるものである。この度の特別展では大阪の道明寺より秘仏とされる重要文化財の十一面観音像が出品されている。道明寺は菅公の祖先に当たる土師氏の氏寺であり、菅公の伯母である覚寿尼が入寺したと伝わる場所である。この秘仏は、菅公自身が彫ったと伝わる同寺の御本尊制作のための試作「試みの観音」（何れも自彫）と伝わるものであり、菅公自身の仏教との深いご縁を物語るものであるといえる。（図2）

### 初公開 長谷寺とのご縁を物語る厨子入十一面観音および四脇侍立像



図3 初公開となる厨子入十一面観音および四脇侍立像

また北野天満宮の天神様の本地仏は、奈良の長谷寺の十一面観音像であるとされ、中世から近世にかけてその深い関係性が強調されてきた。本展に出品される長谷寺所蔵の「長谷寺縁起絵巻」は、菅公が撰述したものであるとの伝承があり、本地垂迹関係だけではなく、長谷寺の信仰体系と天神信仰との関係の深さもうかがえる。

「厨子入十二面観音および四脇侍立像」は、菅公手彫りの枕観音と伝わるもので、岩盤の上に立つ十一面観音の姿は長谷寺式観音を彷彿とさせる。わずか十五センチメートルほどの厨子の中に、本尊である十一面観音とともに脇侍として、地藏菩薩、不動明王、難陀竜王、雨宝童子が配される。普段は華鬘により隠れている柔和なお顔、そして、切金細工の装飾や、わずか三〜四センチメートルの脇侍の光背と持物が金属製である点など、ぜひ具にご覧いただきたい。その他にも神仏習合を物語る美しい經典の数々も、素晴らしいライティングのもとで展示されているので、この機会にぜひご覧いただきたい。

## 第二章 北野天満宮の歴史

### 史上初 国宝 北野天神縁起絵巻（承久本）全九巻 全巻全場面展示！

#### フェノロサの手紙も合わせて公開

二階の展示室には、見応えたっぷりの北野天神縁起絵巻の数々が、大変贅



図4 北野天神縁起絵巻（承久本）展示の様子

沢に並べられている。

この度の展示の最大の見どころはなんとと言っても、鎌倉時代に成立した国宝「北野天神縁起絵巻（承久本）」の全巻全場面展示である。そして最大の絵巻であり、今なお鮮やかな色彩を保っている。通常は横長で繋ぐはずの和紙を縦長に使った大画面は、高さ五二センチメートル。通常の絵巻を見比べると一目瞭然で、展示にあたった京都国立博物館の研究者ら専門家からも思わず抑えきれない「すごい！」「大きい！」という声が出るほどであった。ダイナミックな場面展開やユーモアのある人物描写などが見られ、言うまでもなく

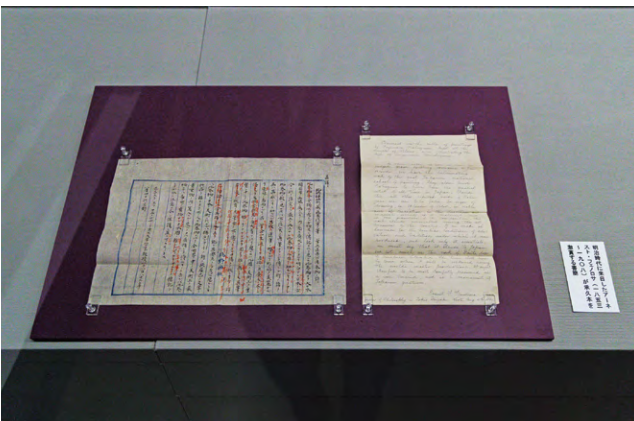


図5 フェノロサ絶賛の地獄の場面と直筆の手紙

図6 国宝《北野天神縁起絵巻（承久本）》展示予定詳細

	4/18 ~ 4/26	4/28 ~ 5/4	5/5 ~ 5/10	5/12 ~ 5/17	5/19 ~ 5/24	5/26 ~ 5/31	6/2 ~ 6/7	6/9 ~ 6/14
巻第1	第1段、第2段			第3段				
巻第2			第1段、第2段		第3段、第4段			
巻第3	第1段		第3段		第2段			
巻第4	第1段		第2段		第3段、第4段			
巻第5	第2段		第1段		第3段	第4段	第5段	
巻第6	第1段、第2段			第3段、第4段				
巻第7	前半		後半					
巻第8					前半		後半	
巻第9	前半				後半			

が予定されている。担当学芸員の言葉を借りれば、研究者の中でも承久本の全てを見たことがある人は片手に足りるほどである。たった五回の来訪で承久本の全てを見ることができ、機会を逃さず、ぜひ皆様にもご覧いただきたい、とのことであった。

### 重要文化財の天神縁起絵巻の数々が結集！

承久本に加え、長い年月の経過とともに刻まれた皺や損傷の奥に、端正な筆致と規範的な天神の物語をもつ重要文化財の北野天神縁起絵巻（弘安本）も、北野天満宮所蔵の三巻に加えて、東京国立博物館所蔵の断簡二巻と大東急記念文庫所蔵の断簡三幅も合わせて展示される。大和絵の名手土佐光信によって描かれた同じく重要文化財の光信本、土佐光起による光起本に加えて、兵庫の津田天満神社に伝わる津田本、前田育徳会所蔵の荏柄天神縁起絵巻、山口の防府天満宮に伝わる松崎天神縁起絵巻（いずれも重要文化財）等、貴重な天神縁起絵巻が一堂に会する初の機会となっている。

大変魅力的な絵巻であるといえる。

承久本は未完の大作と呼ばれ、詞書があるのは六巻までである。七巻、八巻には、明治の御雇外国人のアーネスト・フェノロサが「ダンテの神曲がごとく」人類の宝であると絶賛した大迫力の日藏正人の六道巡りの地獄の場面が描かれている。この度、北野天満宮外では初のフェノロサ直筆の手紙の展示も実施されているので合わせてご覧いただければ幸いである。

いかに大きな展示ケースを有する京都国立博物館とはいえ、八十メートルにわたる絵巻を一度に展示することはできず、期間中五回の展示替え

### 迫力ある絵馬や彫刻の展示空間

### 初公開 虎図絵馬



図7 大迫力の絵馬展示の様子



図8 狛犬

また大会場ならではの贅沢な絵馬や彫刻の展示も見所となっている。長谷川等伯筆の大画面の絵馬、重要文化財「弁慶・昌俊図絵馬」や、伏見城や二条城を築城したことでも有名な大工頭、中井正清を願主として奉納された虎図絵馬一対も、北野天満宮以外では初出品となっている（図7）。ライティングのもとで見る神々しい狛犬の姿は、毛並みや背中中の筋肉の表現も鮮やかに映し出されている（図8）。

### 第三章 北野天満宮と芸能・文化

第三章では、天神様に寄せられる様々な信仰を具現する御神宝が展示されている。学問に加え、詩歌の神、芸能の神、武道の神など様々な天神信仰の側面を紹介する。

### 芸能の神・詩歌・連歌の神としての天神様

ここでは、当宮に伝わる重要文化財 舞楽図や、当宮境内ではじめて踊ったと伝わる出雲阿国が描かれた屏風（展示は五月十七日まで）、天神ゆかりの能



図10 長谷寺(與喜天満神社)に奉納された重要文化財の鎧



図9 舞楽図と阿国歌舞伎図屏風の展示風景

源満仲により天下守護の太刀として鍛えられ、代々源氏の家に伝来し

### 新たな信仰 — 兄弟刀の同一ケース展示 —

「武運長久」を願い奉納された豊臣秀頼公奉納の大絵馬や鏡には、武神としての天神様への崇敬を見ることが出来る。また武神としての天神を表象するとも考えられる滋賀の天満神社に伝わる天王立像は、当宮創建の御神託にゆかりの社に伝わる武装した姿と見える天神像である。

北野天満宮に奉納された重要文化財の太刀五振りや、天神を祀る山口の防府天満宮や現在は長谷寺の所蔵となっている長谷寺隣接の與喜天満神社に伝来した鎧など、武神としての天神様に奉納された武器も展示される。

### 武道の神としての天神様を あらわす武器武具の数々

楽面などが展示され、芸能の神としての天神様が顕彰される。また詩歌の神としての天神様を物語る、皇室からの和歌の神としての天神信仰があらわれる令和六年度重要文化財指定の「北野天満宮聖廟法楽和歌短冊」や、本年度重要文化財指定となる「北野天満宮聖廟法楽奉納連歌」も指定答申後初の公開となる。

たと伝わる当宮所蔵の重要文化財の太刀 鬼切丸 髭切と大覚寺所蔵の太刀 薄緑 膝丸の兄弟刀。新たな信仰といえるほどの注目を集める兄弟刀をこの度の特別展用に制作した特製ケース内に並べて展示している。刃文や映りをできるだけ見せていただけるよう、ライトニングを施し、三六〇度どの角度からでもご覧いただけるようになっている。本展示室には、鬼切の伝説に因む絵巻や両刀の伝来記が展示され、二振りのためだけの空間となっている。この度の展示に限り、特別に写真を撮影いただける機会となっている。

### おわりに

特別展「北野天神」は、約百四十件の展示作品のうちおよそ四割が国の文化財指定品であるという大変質の高い展示内容となっている。二十五年に一度の式年大祭において、文化の継承、御神宝の保存修復も、絶えることなく連綿と行われてきた歴史の一頁であるといえる。今しか見ることのできない貴重な御神宝の数々をこの機会にぜひご覧いただきたい。

### 特別展「北野天神」公式図録 三、〇〇〇円(税込)／サイズ A4変形版／ページ数三〇頁

この度の図録には、国宝北野天神縁起絵巻の全巻全場面、約八十メートルにわたる物語の世界が、織り込みの特別なページ構成を用いて高精細のカラー画像で収録されている。また北野天神縁起絵巻(光信本・光起本・定信本)や鬼神像、当宮所蔵の刀剣類の新規撮影を行った。研究員らの論考や詳細な解説に加え、画質にこだわった大変質沢な図録となっているので、ぜひこの機会にお求めいただきお手元に置いていただきたい。



図11 刀の展示風景 北野天満宮所蔵の太刀 鬼切丸 髭切と大覚寺所蔵の太刀 薄緑 膝丸の兄弟

# 第十九回「曲水の宴」開宴

平安の雅再現に参観者の眼差し熱く  
今回も外国人の姿多く、国際色豊か



第19回春の曲水の宴 奉仕者

第十九回「曲水の宴」が三月十四日、紅梅殿船出の庭で開宴された。曇り空ながら青空ものぞくまずまずの日和となり、座る席がなほいほどの盛況となった。今回も外国の観覧者は大変多く、平安の雅を再現させた華やかな宴の開催に日本人ともども拍手喝采をおくっていた。

「曲水の宴」は、小川に酒を入れた杯を流し、川畔に座った詠者が流れついた杯を取って飲み、兼題に即した詩歌を賦すという雅な宴。中国から伝えられ、奈良・平安時代には宮中で盛んに催された。高い文才を評価された菅公は、宇多天皇の主宰される「曲水の宴」に幾度も招かれている。

宮中行事なのだが、こうした故事から旧儀復興に力を入れている折、管公を顕彰しようと平成二十八年十一月、紅梅殿船出の庭の完成に伴い、実行委員会が組織され「曲水の宴」の再興となった。それも「和魂漢才」の管公精神に基づき、和歌だけでなく漢詩も賦す「和漢朗詠」という当宮独自のものとし、さらにかつて北野社にもいたという白拍子の舞を加えた他ではみられない宴となっている。



宮中の雅な宴に見入る大勢の来場者



第三詠者 (小林賢太氏・寄田真見乃氏)



第二詠者 (黒川光晴氏・山本奈未氏)



第一詠者 (渡辺正一氏・河瀬直美氏)



藤村正則氏・京都雅楽会による朗詠が平安時代へ誘う



今年十周年を迎えた白拍子研究所による白拍子奉納



第四詠者 (竹中大翔氏・寺村柚香氏)

殿上で菅公作の「花時天似酔」はなのときあまにようびが詠じられ、白拍子が優雅に舞った後、流觴曲水りゅうそうきょくすいが始まった。詩人・歌人は流れてきた杯を口に当て兼題に即した漢詩や和歌を筆でしたためた。杯の流れが悪いと、水干姿の童子が竿を使って手伝い、観覧者の笑いと拍手を誘った。

各詩人・歌人は、自作を披講し、解説を加えた。なお、書かれた色紙・短冊は、終了後、菅公の御神前に奉納された。

「友」。

紅梅殿上の来賓を代表し、自らも三年前（第十二回）に漢詩を賦す詩人として参画された松山大耕妙心寺退蔵院副住職が、日本語と英語で挨拶された後、有斐斎弘道館館長で曲水の宴実行委員長の濱崎加奈子氏の司会・解説によって宴は進行し、外国人の観覧者のため、今回も時折英語で解説が行われた。

奏楽の中、平安装束に身を包んだ男女合わせて八人が静々と入庭し、二人一組になって流れに沿って座った、漢詩を賦す男性詩人は、渡辺正一（株式会社一保堂茶舗代表取締役社長）、黒川光晴（株式会社虎屋代表取締役社長）、小林賢太（京都教育大学講師）、竹中大翔（同志社大学三年生）の四氏。和歌を賦す女性歌人は、河瀬直美（映画作家）、山本奈未（株式会社山本山代表取締役社長十一代当主）、寄田真見乃（尺八奏者）、寺村柚香（同志社大学三年生）の四氏。兼題は「神」「酒」「梅」。



童子 (東原 蒼さん)



童子 (村田煌青さん)



童子 (山本美嘉さん)



童子 (黒川光晶さん)

# 第十九回曲水の宴

## 一番 神

詩人 渡辺 正一 (株式会社一保堂茶舗 代表取締役社長)

神 渡辺正一  
抹茶高価人争啜  
碧粉碾成濃緑新  
今日惟憂香葉少  
豊年和気禱天神

抹茶高価人争啜 抹茶 高価にして人争つて啜り  
碧粉碾成濃緑新 碧粉碾き成して濃緑新なり  
今日惟憂香葉少 今日惟だ憂ふ 香葉少きを  
豊年和気禱天神 豊年 和気 天神に禱る  
価格の高騰した抹茶を人々は争うようにして飲み、  
白でひいた茶の粉は濃い緑色が目に鮮やかだ。  
今、心配なのはそれのおかげで茶葉が不足していることで、  
陰陽の気が調和して豊作になるのを神に祈っている。

\*茶葉を家業とする詩人が、昨今の茶を取り巻く状況を少し憂いつつ、未永く茶業が隆盛し続いていくことを神に祈った詩

歌人 河瀬 直美 (映画作家)

神  
あさぼらけ 夜つゆ集めて 掌に まだ見ぬ神の 光とぞ思ふ

あさぼらけ 夜つゆ集めて 掌に まだ見ぬ神の 光とぞ思ふ  
\*歌人が自宅の庭の夜明けの神の宿りを感じるような神々しい風景と、映画創りを行うなかで感じた神の啓示に近いひらめきを重ねて詠んだ歌

## 三番 梅

詩人 小林 賢太 (京都教育大学講師)

梅 小林賢太  
春夜花香乗好風  
梅園月照見玲瓏  
此身疑是泛銀漢  
枝折明星在手中

春夜花香乗好風 春夜 花香 好風に乗り  
梅園月照見玲瓏 梅園 月照らして玲瓏たるを見る  
此身疑是泛銀漢 此身 疑ふらくは是れ銀漢に泛ぶかと  
枝折明星在手中 枝を折れば明星 手中に在り  
春の夜、花の香りが心地よい風に乗って漂い、  
梅園は月に照らされ、白く輝いて見える。  
この身はもしや、銀河の中に浮かんでいるのだろうか。  
枝を折ると、明るい星が私の手の中にある。

\*古来菅公も例えた通り、詩人が梅花を星の光に例え、梅苑を星の海のようにであり、手折った梅枝は掌中の星のようであるとの思いを詠んだ詩

歌人 寄田 真見乃 (尺八奏者)

梅  
のら立つ 紅梅のよと 名て呼べぬ  
思ひ抱すぬ 恋といふらむか

のら立つ 紅梅のよと 名て呼べぬ 思ひ抱すぬ 恋といふらむか  
\*歌人が記憶の中にある大切な人の名を呼びたいが、距離ゆえにそれが叶わないというもどかしさと静かな情熱を、匂い立つ紅梅のに重ねて詠んだ歌

## 二番 酒

詩人 黒川 光晴 (株式会社虎屋 代表取締役社長)

酒 黒川光晴  
月夜清光晶梅花  
曲水流觴和菓閑  
暗香入酒思宵醉  
千載榮華此地觀

月夜清光晶梅花 月夜の清光 梅花を晶らし  
曲水流觴和菓閑 曲水觴を流して和菓閑なり  
暗香入酒思宵醉 暗香 酒に入りて宵酔を思ひ  
千載榮華此地觀 千載の榮華 此の地に觀る  
夜の天満宮では清らかな月光が梅花を照らし、  
曲水にさかづきを浮かべると羽觴はひとめぐりして流れてくる。  
どこからか漂う梅の香りが酒に溶け込んでるか昔に思いを馳せ、  
千年続く日本文化の榮華が今ここに到来したかのようだ。

\*詩人が代表をつとめる虎屋の代表銘菓「夜の梅」のイメージを交えつつ、曲水の宴にふさわしく酒と梅と月をテーマに詠まれた漢詩

歌人 山本 奈末 (株式会社山本山 代表取締役社長十一代当主)

酒 山本奈末  
一服の縁を酒につなぐ宴  
喜ぶとも 神の御前

一服の縁を酒につなぐ宴 喜ぶとも 神の御前  
\*茶を家業とする歌人が、茶の繋いだ縁に感謝しつつ、お茶の心地を保ちつつ清々しくお酒に酔いしれる心地を詠んだ歌

## 四番 友

詩人 竹中 大翔 (同志社大学三年生)

友 竹中大翔  
不信孟軻朋友道  
何須艱難苦辛際  
善導忠言救厄窮

不信孟軻朋友道 不信 孟軻 朋友の道  
何須艱難苦辛際 何ぞ 須 艱難 苦辛の際  
善導忠言救厄窮 善導 忠言 厄窮を救ふを  
互い善行を求めあうのが友だと孟子は言ったが私は信じない。  
黙ってそばにいてくれるだけで君とは気持ち通じ合えるのだ。  
どうして困難で辛い状況に陥った時に、  
忠告してよい方へと導き、苦しみから救う必要があるだろうか。

\*困難に直面した友を正すのではなく、言葉を交わさずただ寄り添い、時には一緒にどん底に落ちる覚悟があるのもまた一つの友情ではないかという詩人の思いを詠んだ詩

歌人 寺村 柚香 (同志社大学三年生)

友 寺村柚香  
行く末は交はらずともこの軌跡  
言に触れては京を思はむ

行く末は交はらずともこの軌跡 言に触れては 京を思はむ  
\*国文学科に所属する歌人が、自身の好む村上春樹の小説の一節を交えつつ、友と学んだ喜びを詠んだ歌

## 第一回親子五色百人一首交流大会

### 風月殿で二十組の親子が熱戦を展開



「第一回親子五色百人一首交流大会」が一月二十四日、風月殿に二十組、四十人の親子が参加し、熱戦を展開した。

五色百人一首は、取り札が二十枚と少なく、短時間で勝負がつくところから学校などで広まっており、子どもだけの大会は当宮でもおなじみだが、親子がペアとなつての大会は初めて。「百人一首で親子の絆を深めてもらおう」と、一般社団法人五色百人一首協会の京都支部が開いた。

まず二十組の親子による予選が行われ、札を挟んで向かい合った親子ペアは、取り札を見つめ合い、張り詰めた雰囲気。上の句が詠まれるや否や素早く親や素早く親や子どもが手を叩き、激しい札の取り合いとなった。親子が子どもの健闘を称えたり、逆に子どもが親を労つたりと親子の絆の深まる場面があちこちで見られた。

成績のよかつたチームによる決勝トーナメント、さらに決勝戦へと進み、父娘チームが優勝した。小学校四年生の娘は「楽しかった」と、感想を述べていた。



主催者側は「こちらが望んでいた通りの親子交流大会だった。今後も続けていきたい」と、話した。

〈京都市観光協会〉 令和八年度 京都デスティネーションキャンペーン

## 「京の冬の旅」全国宣伝販売促進会議開催

### 北野天満宮巫女舞「紅わらべ」を厳かに奉奏

京都市、公益社団法人京都市観光協会、京阪バス株式会社、JRグループ六社による、京都の文化財特別公開や旅行ツアーなど、冬の京都ならではの多彩な企画を実施する、令和八年度京都デスティネーションキャンペーン「京の冬の旅」全国宣伝販売促進会議が三月五日、ホテルグランヴィア京都にて開催された。

今年で六十一回を数える京都の冬の名物「京の冬の旅」の今回のテーマは『寛永行幸と天神さんの半萬燈祭』。二十五年に一度の当宮式年大祭「半萬燈祭」斎行の期間に合わせた様々な旅行ツアー、体験型プランなどが企画され、令和九年の一月から三月までの京都を盛り上げる。



本会議は、その全国宣伝会議として開催され、会議冒頭のオープニングパフォーマンスとして、当宮の巫女舞「紅わらべ」を京都の伝統文化の代表として披露並びに神職が「半萬燈祭」について、祭の意義やこれまでの取り組み、半萬燈祭の行事予定などを説明した。会場には旅行商品を企画する全国の旅行会社や交通・鉄道会社などの関係者およそ五百名が集まり、荘厳な巫女舞を観るとともに、神事の予定などを確認し、来年一月の企画開始に向けて情報交換等を行なった。「京の冬の旅」についての情報は今後随時発信する。また、本年七月十日〜九月三十日まで実施される第五十一回「京の夏の旅」でも、当宮宝物殿にて、北野天満宮に奉納された豊臣家ゆかりの品々を特別公開する。

#### ■第五十一回「京の夏の旅」

実施期間 令和八年七月十日(金)〜九月三十日(水)

文化財特別公開 北野天満宮宝物殿特別公開ほか

#### ■第六十一回「京の冬の旅」

実施期間 令和九年一月一日(金祝)〜三月二十二日(月祝)

テーマ「寛永行幸と天神さん半萬燈祭」

北野天満宮では、伝説の刀剣「髭切」と刀剣約三十振を一挙公開。また「半萬燈祭」斎行を記念して、歴代萬燈祭ゆかりの宝物の特別公開ほか、文武両道に優れた天神様に信仰深い武人たちの武具や奉納品を公開する。

主催 京都市・公益社団法人京都市観光協会



「誠の心一つ、全身全霊で舞台を  
務めますので天神さまの御加護を」と宣誓

上七軒の芸舞妓が参拝「北野をどり」の成功と技芸上達を祈願して



左より糟谷範子氏、梅はる氏、晴間進氏

「第七十四回北野をどり」（三月二十日から四月二日）を前にした二月二十日、門前花街の上七軒歌舞会の芸舞妓や関係者約三十人が御本殿に昇殿し、公演の成功と技芸上達を祈願した。

「北野をどり」成功祈願祭は、公演を前にした恒例神事で、神職の先導によって風月殿から中庭を通り御本殿まで肅々と参進し、午後三時過ぎより厳かに祭典が営まれた。

齋主の祝詞奏上の後、歌舞会を代表して芸妓組合長の梅はるさんが「上七軒歌舞会一同、誠の心一つ、全身全霊で舞台を務めますので天神さまの御加護を賜りますように」と宣誓の言葉を述べた。

二人の巫女が巫女舞を奉奏した後、上七軒歌舞会の晴間進会長、梅はるさんの玉串拝礼に合わせ参列した芸舞妓ら全員が拝礼した。また、公益財団法人京都伝統伎芸振

興財団の糟谷範子専務理事も玉串拝礼された。

祭典後、中庭で参列者は記念撮影を行い、芸舞妓らは駆けつけた報道陣の取材にも応じ、「一所懸命、お祈りさせて頂きました」と、晴れやかな表情で答えていた。

当宮は、古来文化芸能の神としても篤い信仰を集めており、慶長年間には歌舞伎踊りの祖といわれる出雲阿国が踊りを奉納したことも知られている。上七軒は京都最古の花街で、室町時代、当宮御社殿の一部が焼け、その再建の際、造営の残木で七軒の茶屋を建てたことが始まりとされ、以来、当宮の門前町として発展した。



釣燈籠奉納奉告祭齋行  
御本殿に新たに「基奉納される



御本殿東側廻廊に新たな釣燈籠が奉納され、二月七日に奉納奉告祭が齋行された。

奉納されたのは、当宮特別崇敬者である豊田晋氏で、北野・上七軒界限の発展を日頃より真摯にお祈りされ、令和九年に迎える菅公御神忌千二百五十年半萬燈祭を契機に、この度釣燈籠を一基御奉納される運びとなった。

今回奉納された灯籠は金銅製燈籠。屋根直径九十センチ、火袋直径六十八センチ、総高一二〇センチと大型で、銅打出し・蹴彫・透彫・部分青銅铸件・金箔漆押といった技法で制作された一品となっている。

当日は清

祓式に続いて除幕式が執り行われ、日の光に照らされて輝く新たな釣燈籠が、天神様へと捧げられた。





〈当宮とも深いご縁 嵐電北野線の全線開通百周年〉  
 北野の天神さまに嵐電北野線が走り続けた歴史  
 御本殿で交通安全祈願祭齋行 北野白梅町駅では記念のイベント



石丸昌宏会長、大塚憲郎社長がご参列

当宮とも深いご縁のあ  
 る嵐電（京福電車）北野線  
 （北野白梅町〜帷子ノ辻）  
 が三月十日、全線開通百周  
 年を迎え、御本殿で午後一  
 時から京福電気鉄道株式  
 会社石丸昌宏取締役会長は  
 じめ役員・社員の参列の下、  
 厳肅なる交通安全  
 祈願祭を斎行した。

また、北野白梅町  
 駅では、記念のイ  
 ベントがあり、当  
 宮巫女も特別朱印  
 を授与するなど嵐  
 電北野線の百周年  
 を祝った。

嵐電北野線  
 は、大正十五年  
 （一九二六）に全線  
 が開通した。当時、  
 当宮境内は現在の

北野商店街辺りに一の鳥居が建つなど広大な広さがあり、起終点駅は当  
 宮境内のすぐ近くにあった北野駅だった。このため、多くの人が嵐電を  
 利用して参拝した。

昭和三十三年七月、北野駅が廃止されたことに伴い、次駅の白梅町駅  
 が北野白梅町駅と改称されて起終点駅となった。このため今もお年寄り  
 らを中心に「天神さん参りは嵐電で」という淡い思い出が残っており、

現在も嵐電利用の参拝者は多く、深い縁は続いている。  
 御本殿での交通安全祈願祭には京福電鉄の幹部九人が参列し、石丸昌宏会長、  
 大塚憲郎社長が玉串を捧げ、全員が拝礼して運行の安全と嵐電北野線の益々の繁  
 栄を祈った。  
 北野白梅町駅での記念イベントでは、ホームに沿線の御室幼稚園児や保護者ら  
 が並び、旗を振って出発した百周年ヘッドマーク付きの新型車両を見送った。  
 巫女が駅で授与した御朱印は、嵐電車両があしらわれた百周年を記念する特別  
 のもので、この日から一年間、授与所でも授与される。



地元幼稚園児らに見守られ、新型車両「KYOTRAM（キョウトラム）」出発



嵐電百周年記念御朱印を一年間限定で授与

千百二十五年  
半萬燈祭  
記念事業

境内の防災設備工事、三年半かけて完了  
史跡御土居内の展望台で記念の式典  
自動放水銃が国宝の御本殿の屋根などに水のアーチ



国宝の御本殿を守るため、改修された防災設備

令和四年秋から国庫補助を受けて進められていた境内の防犯防災設備工事が完了し、四月八日、国宝の御本殿や重文の廻廊が見渡せる史跡御土居内の展望台で記念式典を挙行し、新設の自動放水銃が檜皮葺き屋根に水のアーチをかけて威力を披露した。

この工事は、文化庁の防災施設整備事業の指針に基づいて行われ、消火設備・自動火災報知設備・防犯設備の改修が施された。消火設備については、これまでも境内に屋外消火栓はあったが、凡そ三人での操作が必要であった。しかし、今回設置された十五基の消火栓は、老若男女を問わず一人でも操作可能なものとなった。

（十三基）に替え、早朝や夜間でも文道会館や社務所から神職が操作することが可能となり、緊急時の初期消火に威力を発揮する。

さらに、自動火災報知設備も、これまでの熱感知の設備より早く火災を感知できる煙感知器に切り替えられた。しかも、これまでの設備では、広いエリアでの火災の感知しきれなかったが、今後はどここのエリアなのか詳細にわかるようになった。これまで境内南側にあったポンプ室・貯水槽を北側に移して新築、エンジンポンプは一台から二台に増やし、貯水量も大幅に増やした。

防犯設備についても、境内の赤外線センサーや放送設備、防犯カメラなどの改修・増設が行われ、文道会館などから防犯カメラで境内の監視が可能となった。

記念式典には、山下信一郎文化財鑑査官を始め文化庁関係者、消防、警察関係者、防災工事の関係者ら約三十五人が列席して行われた。宮司が関係者へのお礼を述べ「過去五回ほど火災にあっていると聞き及んでいる。防災設備が一新されたのを機に、慶長年間に建てられた現在の御本殿を守るため、一層気を引き締めなければ」と思っている」と、挨拶した。

続いて山下鑑査官が「防火に対する強い意識の下、国宝・重文の社殿群の防災設備が整備された。社殿群の屋根は檜皮葺きだが、今回の防災工事は、こうした社殿群の特性に一層対応し、万が一の備えをさらに充実させるものだ」と、述べられた。また、中村正俊上京消防署長も「最新の防災設備が出来、消防に携わるものとして大変喜んでい」と、挨拶された。

この後、今回の防災工事の設計を担当した一般財団法人京都伝統建築技術協会の担当者から、工事概要の説明が行われた。最後は、「放水始め！」の号令とともに境内に取り付けられた新設の自動首振り放水銃十三基から水のアーチが国宝の御本殿を始め重文の回廊の檜皮屋根にかけられ、参列者がこの様子を見守った。



新たに設置された放水設備



関係者が参集し記念式典を挙行

## 文道会館で「第十三回京都子ども将棋交流大会」開く 九十人が盤上で火花、プロ棋士の指導も



洛和会ヘルスケアシステム(矢野裕典理事長)主催、日本将棋連盟京都府支部連合会、公益社団法人京都市児童館学童連盟共催による「第十三回京都子ども将棋交流大会」が三月七日、文道会館で開かれ、市内各児童館・学童保育所で行われた予選(四百二十人参加)を勝ち抜いた約九十人が盤上で火花を散らした。

当宮での大会は、一昨年夏の第十二回大会に次いで二回目。矢野理事長や宮司らが列席して行われた開会式に引き続き競技が始まった。小学校低学年と高学年の両部に分かれ、午前中は四人一組のグループトーナメント戦を実施、午後は各組一位の子ども二十四人によるトーナメント戦を実施、低学年、高学年とも一位

から三位(二人)の入賞者が決まり、表彰式が行われた。

会場の一角では、プロ棋士の安用寺孝功七段、西田拓也六段、松下舞琳女流初段の指導対局も行われた。

閉会式で安用寺七段は「優勝の二人、おめでとう。敗れた子も次の機会に頑張ってください。家に帰ったら、今日の感想を親に報告して下さい」と挨拶した。

明治維新まで当宮の別当だった曼殊院門跡(京都市左京区)が将棋駒の元字や古い駒文字の手習書『将棋馬寫』を所持するなど将棋との縁が深かったことから当宮で各種の子ども将棋大会が開催されている。



## 読売新聞わいず倶楽部会員が昇殿参拝 当宮への理解を深める特別講座も聴講



読売新聞わいず倶楽部の会員三十五人が三月九日、当宮を訪れ昇殿参拝し、境内を巡った後、文道会館で行われた神職による特別講座に耳を傾けた。

わいず倶楽部は「地域社会に関わり、人生を充実させたい」と願う五十歳以上の人を応援する読売新聞大阪本社の会員組織。京都国立博物館での「北野天神」展を前に当宮を訪れて「天神さま」の始まりに触れようと催された。

文道会館での講座の講師に当たった当宮禰宜は「天神縁起絵巻に秘められた信仰的な部分やその精神性に

ついて聞いていただき、展覧会をご覧になる際の参考に」と、切り出し、「九八七年に一條天皇から天満宮天神の称号を与えられて天神信仰が始まった」とし、学問だけでなく様々な信仰に広がる素地となった学者・政治家・文化人などなど、すべてにわたり卓越していた菅公について解説した。

「天神縁起」のお陰もあり、天神さまを祀る神社は全国一万二千社に広がったが、今回公開の天神縁起絵巻最古の「承久本」は、神職でも滅多に見ることが出来ない御神宝」として、じっくり鑑賞することを勧めた。



# 第四回池坊献華式と齋行 西廻廊では奉賛のいけばな展



御本殿にて献華式齋行

華道家元池坊による第四回献華式が二月八日午前十時から御本殿で齋行された。西廻廊では奉賛のいけばな展が七、八の両日開かれ、多くの参拝者が見入った。

池坊による献華式は、平成十四年の御神忌千百年大萬燈祭に際し一回目が齋行された後、今回が四回目。

「文道大祖 風月本主」と讃えられた御祭神の菅公は、文化芸術の神としても信仰を集めており、華道家元池坊とも深い御神縁がある。毎年正月、神楽殿で催される京都支部による奉納献華展は、新年恒例の行事として初詣参拝者の目を楽ませている。

御本殿に京都支部員ら約五十人が参列する中、男性の華道家二人が紅梅と白梅をいけ、菅公の御神前に供えた。

齋主の玉串奉奠に引き続き参列者を代表して城野眞理子支部長が玉串拝礼され、参列者全員が一層の精進を誓って拝礼した。

西廻廊での奉賛いけばな展は、支部の華道家が梅や椿、松などの花材を使っていけた二十点が並んだ。八日は生憎の雪模様となったが、多くの参拝者がかけつけ、作品に見入り、写真に取っていた。



御本殿前西廻廊にていけばなの展示



池坊京都支部 城野眞理子支部長 玉串拝礼



KYOTO  
NIPPON  
FESTIVAL

梅苑「花の庭」を舞台に KYOTONIPPONFESTIVAL 開催  
蜷川実花氏、宮田裕章氏ら参画、菅公精神を梅とクリスタルで具現化  
刻々変化する梅苑の輝きに観梅の参拝者感動



屋外アートインスタレーション「光と花の庭」

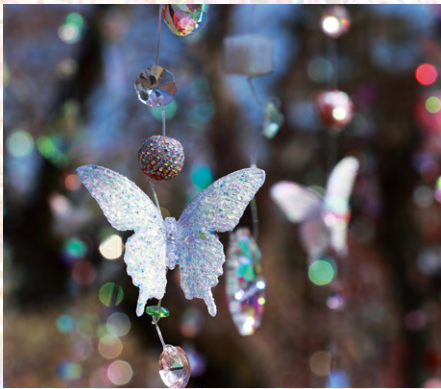
菅公十一歳詩作

月夜見梅花

月耀如晴雪 (月の耀くは晴れたる雪の如し)  
梅花似照星 (梅花は照れる星に似たり)  
可憐金鏡転 (憐ぶべし金鏡転り)  
庭上玉房馨 (庭上に玉房の馨れるを)

今年で十年目となる「KYOTONIPPONFESTIVAL」(同実行委員会主催)が二月一日、この日から開苑した梅苑「花の庭」を主会場に始まった。写真家・映画監督・現代美術家として多彩な活動を行っている蜷川実花氏が、クリエイティブチームEiM(エイム)と組んで実施した屋外インスタレーションアートは、令和四年再興の雪月花の三庭苑の一つである梅苑「花の庭」の新たな魅力を引き出し、観梅の参拝者を感じさせた。

梅苑「花の庭」は、かつて洛中をわかせた清水寺の「月の庭」、妙満寺の「雪の庭」と並ぶ名苑「雪月花の三庭苑」のうちのひとつ。明治以降消えたかつての名苑を、令和九年に迎える菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭に向けて整備、令和四年に現代に



アートインスタレーションを一目見ようと大勢が集った



夜は大きく異なる雰囲気へと変化する



かつて菅公の詠まれた詩が、現代美術によって表現される（撮影：蛭川実花氏）

開幕を前にして一月二十九日、報道関係者ら多数が集い、文道会館で式典が行われた。主催者を代表し宮司が「御祭神の菅原道真公は、縄文時代から受け継がれている美的感受性を持たれた心豊かな人で、そこに多様な文化を採り入れ、融合させる和魂漢才の精神を提唱された。今回のフェスでの梅苑内の「光と花の庭」は、天神信仰の一端を見事に表している。来年迎える菅公御神忌千二百二十五年の記念事業として、菅公精神と天神信仰に寄り添った当宮ならではの催し。多くの皆さんにご覧頂きたい」と、挨拶した。

来賓の西脇隆俊京都府知事は「KNFは、世界に向けて日本文化を発信して頂いている。府では昨年、茶の魅力を国内外に発信する『京都まるごと茶の博覧会』を各地で開き、結びは秀吉が北野大茶湯を開いた北野天満宮で開催し、三万人もの人が参加した。今回の『花宵の大茶会』では、歴史上存在しなかった大茶湯二日目が行われるとか。特別な空間での特別な経験を多くの人が体験できれば」

**KNF開幕を前に報道関係者らに向けて発表会  
宮司が主催者挨拶、府知事、京都市長も来賓挨拶**

また、史跡御土居内の梅交軒では、「残照」と題した作品を展開、生花と枯れ葉の造花を共存させ、生と死を表した展示で、「このテーマはこれまででもやっているが、今回の作品は、この場所の醸す力を借りて辿りついたもの」（蛭川氏）という。

蘇った。境内全域で約五十種・千五百本の梅のある当宮において、その大部分が梅苑に集中しており毎年、観梅の中心地として全国より参拝者が訪れ、大いに賑わっている。

この梅苑「花の庭」が、今年「光と花の庭」と題し、梅の枝には、パーツをつないだクリスタルが約千二百本も吊るされ、自然とアートが融合した幻想的な雰囲気を作り上げた。この作品は、菅公が十一歳の時に詠まれた漢詩「月夜見梅花」の一節「梅花似照星（梅花照る星に似たり）」を蛭川氏がオマージュとして捧げられた作品。梅の花は夜空に照る星のようであると詠まれた菅公にない、光を受けて星のように輝くクリスタルで梅の木々を彩った。

蛭川氏は「梅苑にあわせて、ひとつひとつ手作りしたパーツをつないだ。自然光の中で刻々と変わっていく苑内の表情を楽しんで頂けたら」と、話されていた。



御土居梅交軒「残照」



大勢のメディアを招いてトークショーを開催



イマーシブシアター「花宵の大茶会」



御本殿にて成功祈願祭斎行

イマーシブシアター「花宵の大茶会」は、北野天満宮の歴史や信仰を存分に表現された、この期間中だけ見ることが出来る特別な舞台とあって、連日大勢が訪れ、大盛況となっている。

先立ち三月十七日には、舞台の成功を天神様に祈願するべく、関係者が御本殿に参集、成功祈願祭を厳粛に催行した。今回の舞台は、

野大茶湯を題材に、御祭神道真公や、当宮との縁深い偉人が、それぞれの心に潜む影と向き合うという物語。演じるのは日本におけるイマーシブシアターの開拓者、ダンスカンパニーD.A.Z.Z.L.Eで、舞台美術やコンセプトメイキングを蜷川実花氏や宮田裕章氏はじめとするクリエイティブチームEiMによって手掛けられた。開演に

開演、初日から大勢が鑑賞し、華やかな世界に浸った。

イマーシブシアターとは、観客が客席に座って鑑賞するのではなく、演者と同一空間に入り込み、物語の登場人物として体験する新たな演劇形式。決まった客席やステージは存在せず、空間全体が舞台となる従来とは大きく異なる体験が魅力となっており、凡そ二十年前にロンドンで生まれて以来話題となり、ニューヨークを起点として世界的に広まっていった。

**風月殿にてイマーシブシアター「花宵の大茶会」開演  
北野大茶湯幻の二日目を舞台に、歴史の偉人が乱れ舞う**

此度のKYOTONIPPONFESTIVALのもう一つの目玉となるイマーシブシアター「花宵の大茶会」が三月二十日より開演、初日から大勢が鑑賞し、華やかな世界に浸った。

イマーシブシアターとは、観客が客席に座って鑑賞するのではなく、演者と同一空間に入り込み、物語の登場人物として体験する新たな演劇形式。決まった客席やステージは存在せず、空間全体が舞台となる従来とは大きく異なる体験が魅力となっており、凡そ二十年前にロンドンで生まれて以来話題となり、ニューヨークを起点として世界的に広まっていった。

と、挨拶された。また、松井孝治京都市長は「伝統の上に現代の美しいアートをコラボさせるといったまさに千年の都、京都らしい取り組みだ。伝統を大事にししながら新しい革新をぶつける。未来の京都を支える大きなイベントだ」と、来賓挨拶された。

さらに蜷川氏と、EiMの一員として活動する宮田裕章氏（科学者・エグゼクティブディレクター・慶応義塾大学医学部教授）が対談し、今回の取り組みの見どころを語りあった。

この後、全員が庭に出て、一輪一輪と咲き出した梅の中に展開されているアートの雰囲気を感じ。州浜内で行われたダンスカンパニーD.A.Z.Z.L.Eを主宰する長谷川達也氏による奉納の舞を観賞した。



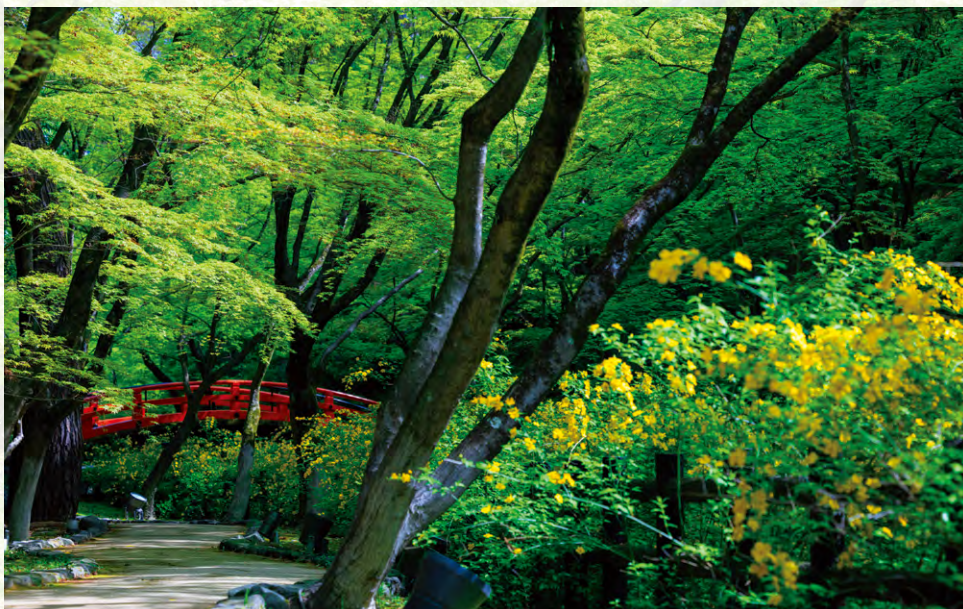
没入感を高める舞台芸術の数々



目の前で繰り上げられるパフォーマンスは圧巻



# 豊太閤築造の歴史的遺構「史跡御土居」公開 山吹の花と青もみじ、新緑鮮やかに色づく



「史跡御土居の青もみじ苑」開苑

天曆元年（九四七）に創建されて以来千有余年に亘る歴史を紡いできた当宮境内には、現在までに大規模な境内整備が度々行われてきた。それにつつまる遺構が境内に数多く残っており、境内西側一帯に広がる史跡御土居もその一つである。

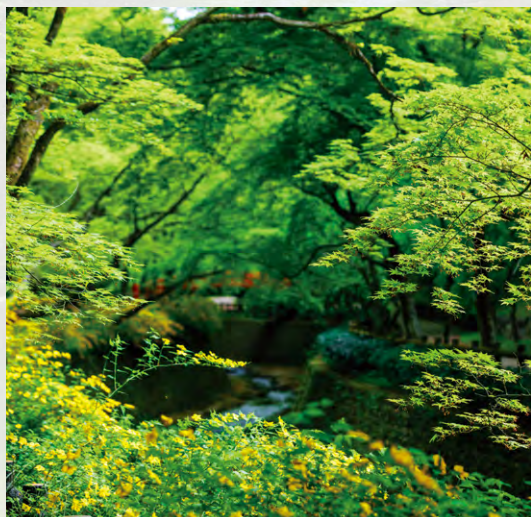
史跡御土居は天正十九年（一五九二）、秀吉公が行った都の整備事業の一環として築いたものである。都を外敵や川の氾濫から守るために築かれたものであり、天下人となった秀吉公が都を守護するために築いただけであり、築造当時、総延長約二十三キロにもわたる長大な防塁が京都を取り囲むように巡らされていた。御土居の内側を洛中、外側を洛外とされ、現在でもその呼称が残っている。江戸時代から明治時代にかけては、御土居はその役目を終えるとともに徐々に取り壊されていき、現在では史跡に指定された北区や上京区の九カ所にその姿を残すのみとなった。中でも当宮の御土居は当時の姿をそのまま残しており、北野のみ唯一造られた石造りの暗渠（悪水抜き）など、他にはない貴重な歴史的遺構が現存している。

令和九年の半萬燈祭に向けた記念事業の一環として、平成十九年から御土居の整備を進め、現在では秋の紅葉と初夏の青もみじの景勝地として全国から参拝者が訪れている。

今シーズンは、四月六日から六月二十八日まで公開する。山吹が見頃を迎えると、新緑と黄色のコントラストで苑内が色鮮やかに彩られる。また、本年は現在開催中のKYOTONIPPONFESTIVALと合わせてライトアップを行っており、五月二十四日まで、毎日ライトアップを実施。例年同様に青もみじ苑としての入苑のみに限らず、蛭川実花氏によるアートインスタレーション「光と花の庭」に入苑した方も、新緑の青もみじをご覧いただける。太陽の光の差し込む鮮やかな光景が楽しめる昼と、ライトの明かりに照らされ、夜空に色濃く浮かび上がる幽玄な景色が美しい夜と、インスタレーションと同じく時間により様々な表情を見せる青もみじを楽しめる。



展望台からは国宝の御本殿を望める



この時期ならではの新緑の美しさが楽しめる

# 紅梅殿で恒例の「梅ヶ枝連歌会」張行 四十四句の連歌を御本殿で奉納



連歌会の様子

め、たくさんの連歌興行が行われてきた。連歌を天神に捧げることで天神の神威を倍増し、捧げた人には諸願成就が約束される法楽連歌であり、当宮での連歌は単なる文芸に留まらなかった。

京都連歌の会は、こうした伝統を引き継ぎ、かつての連歌会所の井戸があったすぐ隣にある紅梅殿で、毎年春には「梅ヶ枝連歌会」を、また、秋には「もみじ連歌会」の張行を恒例としている。

京都連歌の会は、三月十五日、恒例の「梅ヶ枝連歌会」を紅梅殿で催し、賦何木連歌で詠まれた四十四句を御神前に奉納した。

御祭神の菅公は、「文道大祖風月本主」と崇められたため、古くから和歌の神、連歌の神として崇敬されてきた。とくに連歌については室町時代、境内の内外に二カ所の連歌会所が置かれ、宗祇・宗叡・宗祇・兼載といった著名な連歌師が、室町將軍の任命を受け、その最高権威の職位だった奉行職を務めて將軍による連歌興行を始める



御本殿で連歌を奉納

## 連歌奉納

令和八年三月十五日  
於 北野天満宮 紅梅殿

宗匠 関本 稔  
執筆 徳久 青檜

### 賦何木連歌

初折表

光と花の庭、新たに作り奉りて

白梅は地に添ふ星の光かな

玉房かをる清き春の夜

見渡しの八重の霞も明けそめて

鳴かぬうぐひす歩みてぞ知る

はるけくも寄する砂子に沖つ風

心さやけし旅立ちのとき

三日月をなほ待てとかや峰聳ゆ

いくばくもなく山も粧はむ

初折裏

草の戸に父よのこゑを聞けとこそ

懸樋の音も絶ゆるこのごろ

ゆきすぎてもしやと思ふ橋の上

なつかしき香の追へぬひとすぢ

契りなほ深き日々こそしのばれて

あなあやにくの宿世なりせば

逢ふまでとさびしさに堪へ旅衣

幾山かけて村雨ぞ降る

涯ならぬ夢は夏野をさまよひて

涼しさ呼べと月を求むる

波羅密のつきづきしくもおだやかに

桑門はも耳洗ふ川

牛牽きてしばしやすらふ花の下

ながき日いつにあらぬ影ろひ

重十九

稔

敦子

佐代子

貞子

和行

正純

奈智子

博介

かおり

満千子

青檜

稔

敦子

佐代子

貞子

和行

正純

奈智子

博介

かおり

満千子

連歌の心ことはじめ四

京都連歌の会 大村敦子

「月耀如晴雪 梅花似照星 可憐金鏡轉 庭上玉房馨」 菅公十一歳の時の御作で、『菅家文草』の巻頭に収められています。今年の梅苑は、クリスタルが輝きを添える「光と花の庭」が作られ、まさしく右の詩のとおり、梅の花が地上の星のようにきらめく風景でした。「梅花似照星」を詠んだ発句には今日の庭である旨の詞書きを添え、脇は「庭上玉房馨」で受けています。

さて、連歌の展開は雅楽の序破急に例えられます。序はゆるやかに、破は時に外来語なども交えながら賑やかに、急では興もありつつ重くならずめでたく詠んで巻き終えます。

発句脇を受けてからの序は、霞、鶯と春の景を続け、浜辺から旅立ち、山に遮られる月、紅葉の華やかさを見て、父よと鳴く蓑虫の声が心にしみいると転じ、手入れがされない掛樋の寂しい場面へとつなげています。序では恋、述懐、神祇、釈教、名所という心を揺さぶるようなものは詠めないという制約があります。破の部分ではその制約が全てなくなり、それでも破の前半は礼儀正しさを残し、後半は和語からの逸脱や、よりうちとけた句を詠んでもよいとされます。破の前半、橋上ですれ違った人はかつての恋人ではなかったか、と恋の世界が始まります。恋の苦しさ、人生という旅の迷いを救うような月、波羅蜜多を唱える桑門の生き様、しばしの憩いを花の下で送る春の永日。破の後半、春風に散歩をする人は宿替えをしてきた人で、その人物は「伊賀の者」とする句。忍者でしょう。二つの解釈ができます。忍者の使命としてひそかに我が主人を守る。もうひとつは、忍者に狙われていることに気付いた供の者が主人を守る。この前句を受けての付句は二つ目の解釈で付けられているのですが、実は私はこの解釈に考えが及んでいませんでした。ひとりでは気付かない解釈があるのも連歌のおもしろいところですよ。

巻の最後の挙句は、『菅家後集』に収められている「詠楽天北窓三友詩」中の「東行西行雲眇眇（とさまに行き かうさまに行き 雲眇眇）からとっています。菅公の詩に始まり、菅公の詩に終わった連歌が菅公の御心の慰めになるようにと念じて詠み継いだ春の一日でした。

名残表

春風に誘はるるまま知らぬ道  
宿替へてより寝は幾つ寝し  
伊賀の者とあれば忍びて主守り  
あてなる宮に手向けすべきぞ  
雪や訪ふ文読む袖を濡らせるは  
あくがれとほく君の面影  
諸恋と知らでかたみに背きつつ  
井筒のそばの竹さわぐなり  
外つ国の雲はあやしき色に染み  
筑波の道に祈りせましを  
帰りえぬふるさとの方しのばれて  
いづくを指さむ雁が音の列  
うち見れば月もてなさぬ露もなし  
子らの笑顔に比良の秋風

名残裏  
雲はなほひとりの空を鳥過ぎて  
島影あたり波もささやく  
入江よりあらたかの船漕ぎ出でな  
声しづまれとこがらしの朝  
迷ひなく仕ふる衣に身をつつみ  
睦ぶのどけき世にひろくあれ  
花盛る中に蕾の光りけり  
とさまかうさまゆくや若草

西田正純 三  
坂上奈智子 二  
片山博介 二  
押川かおり 三  
服部満千子 三  
徳久青檜 二

鈴木啓士 一  
芝田純平 二  
岡子まり絵 二  
栗田純一 三

啓士 一  
純平 二  
まり絵 三  
純一 三  
敦子 三  
和行 二  
敦子 二  
和行 二  
敦子 二  
和行 二  
敦子 二  
和行 二  
敦子 二  
和行 二

句上

橘 重十九 一  
関本総 三  
大村敦子 五  
新田佐代子 四  
河合貞子 四  
中村和行 四

西田正純 三  
坂上奈智子 二  
片山博介 二  
押川かおり 三  
服部満千子 三  
徳久青檜 二

鈴木啓士 一  
芝田純平 二  
岡子まり絵 二  
栗田純一 三

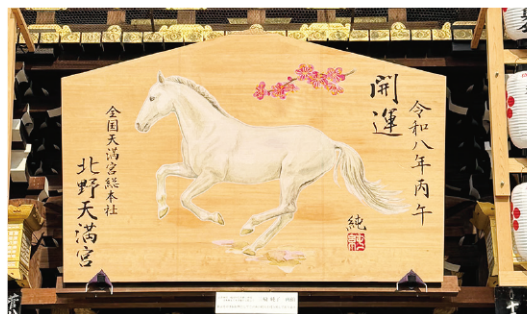
啓士 一  
純平 二  
まり絵 三  
純一 三  
敦子 三  
和行 二  
敦子 二  
和行 二  
敦子 二  
和行 二  
敦子 二  
和行 二

# 丙午 初詣

三が日ともまずまずの日和、昨年を上回る参拝者で賑わう  
入試合格を願う若者たちの祈り篤く、熱気溢れる



新春初詣のため、御本殿前に押し寄せる数多の参詣者



楼門に掲げられた午年の大絵馬



一ノ鳥居から御本殿まで続く人波と露天商の店々

令和八年、丙午年の初詣は、二日の夜に雪がちらついたものの、三が日ともまずまずの日和となり、御本殿前中庭は昨年を上回る参拝者で埋まり、一年の「無病息災」「家内安全」などを祈る人たちの熱気に包まれた。境内一円は、数多くの露天が並んで賑わい、牛社・絵馬掛け所付近は、「志望校合格」や「学業向上」を願う若者や家族の行列が出来、例年に増して受験シーズンが始まる緊張感が漂う風景となった。

新年を迎えるための神事は、大晦日の午後四時から御本殿前の中庭で齋行された年越しの大祓で始まった。神職・神社役員・崇敬者ら約七百人が参列。全員で大祓詞を奏上し、一人ひとりが切幣きりひきを自らのからだに振りかけ、身についた罪穢れを祓った。

同七時からは、御本殿において除夜祭の齋行、引き続き火之御子社において鑽火祭の齋行となり、古式通り浄火がきり出され、同十時から火縄授与が始まり、午年の初詣が始まった。

御本殿における新年最初の神事である歳旦祭は、元日午前七時から宮司以下神職によって厳かに齋行され、皇室並びに国家の益々の隆盛、世界の平和、氏子崇敬者を始めとする国民の弥栄を祈願した。

楼門から御本殿前中庭に至る参道は、夜明けとともに初詣の参拝者で身動きが取れないほどの混み合い振りだったが、昨年以上に大前の賽銭箱を広げ、拝礼出来る場所を拡大し、おみくじを結ぶ場所の増設、参拝者の動線を工夫するなどの雑踏対策も奏功し、概ねトラブルのない穏やかな初詣風景となった。

また昨年末、表参道沿いに新設された「観光トイレ」も好評で、利用した人々からは「広くて清潔」「とてもきれい」との声が寄せられた。

# 北野の光

齋行された祭典・行事  
《二月～三月》

## 書の上達、学力向上を願い 神前書き初め「天満書」



神前書き初め「天満書」が一月二日から四日まで絵馬所で行われ、子どもたちが筆に願いを託して書き初めをし、出来上がった作品を奉納した。「天満書」は、室町時代に当宮で行わ

神前書き初め「天満書」 子どもも大人も一心に

一月二日午前九時から御本殿において、菅公御遺愛と伝わる硯などを御神前にお供えし筆始祭を齋行した。菅公は書道の神さまとしても篤い信仰があり、筆始祭は、その御神徳を偲ぶとともに書に親しむ人たちの書道上達を祈って齋行される恒例の祭典。併せてこの日から神前書き初め「天満書」を始めることを御奉告した。



筆始祭を齋行

神前書き初め「天満書」が一月二日から四日まで絵馬所で行われ、子どもたちが筆に願いを託して書き初めをし、出来上がった作品を奉納した。「天満書」は、室町時代に当宮で行われた「裏白連歌」を発祥とする由来があり、昭和二十七年、御神前で書き初めをして書道の上達・学力向上を祈願する正月行事となった。連日、多くの子どもたちが、筆に願いを託して書き初めをし、力作を奉納した。奉納作品は、二千四百三十九点（神前の部千二十七点、家庭の部千四百十二点）。

奉納された全作品の展示が一月十六日から二十五日まで西廻廊と絵馬所で行われた。「駿馬」「神馬」など干支に繋がる字や「合格」「精進」「健康」などなど願いを込めた筆字が並び、ゼロ歳児や幼児の作品もあり、連日多くの参拝者が足を止め、作品に見入った。作品の審査は、展示初日に日比野博鳳・山本悠雲・竹内勢雲・尾西正成・西村大輔の五先生と宮司によって行われ、五百九十七点（神前の部二百一点、家庭の部三百九十六点）の入選が決まった。また、梅花賞（一般賞）として二百二十八点を選んだ。

全作品を西廻廊と絵馬所に展示  
初日に審査、五百九十七点が入選



入選者は次のみなさん。

### 【神前の部】

- ▽天満宮賞 丸山瑞希（安町幼稚園年中）、柄本燈真（錦林小一年）、木和果乃音（吉祥院小二年）、柄本千智（錦林小三年）、渡部菜優（桂川小四年）、久斗杏莉（亀岡市立安詳小五年）、片山咲奈（園部小六年）、小菅陽菜子（奈良教育大附属中一年）、仲西千優（亀岡市立東輝中二年）、村上夏美（府立園部高校附属中三年）
- ▽京都新聞特別賞 加藤想乃花（下鴨中一年）
- ▽京都新聞賞 池田瑞穂（錦林小一年）、川村かれん（西陣中央小二年）、谷口雅也（安詳小三年）、柳内咲里（七条第三小四年）、山本知依（唐橋小五年）、滋賀結菜（上賀茂小六年）、山口千尋（田辺中三年）

### 【家庭の部】

- ▽鳩居堂賞 近藤英光子（名古屋市立猪子石第一保育園年中）、仙浪優依（朱雀第八小一年）、小倉迅ノ亮（錦林小二年）、丸山悠希（亀岡市立亀岡小三年）、伊東楓香（京田辺市立普賢寺小四年）、谷口優菜（安詳小五年）、小倉夏梨（錦林小六年）、肥後美咲（電岡中二年）
- ▽金賞 八代依采（翔鸞幼稚園年少） 始め七十二人
- ▽銀賞 福田樹春（京都きらら幼稚園年少） 始め百三人
- ▽梅花賞（一般） 槌谷彩（一般） 始め百四十四人
- ▽天満宮賞 通田千依（啓琳社年長）、古田絃（藤ノ森小一年）、木和果乃音（吉祥院小二年）、谷口雅也（安詳小三年）、内藤理仁（木村毛筆硬筆教室 小学四年）、谷口優菜（安詳小五年）、安田紗帆（三山木小六年）、北村光成（伏見中一年）、秋永琴帆（田辺中二年）、村上夏美（府立園部高校附属中三年）
- ▽京都新聞賞 中田あかり（啓琳社小学一年）、岡有咲（松本松栄堂書道教室 小学二年）、柄本千智（錦林小三年）、長松有俊（立命館小四年）、吉岡優衣（第四錦林小五年）、青木奈咲（福知山市立修齊小六年）、伊藤里紗（船橋市立船橋中一年）
- ▽鳩居堂賞 宮崎音羽（こども園いしはら年中）、栗原結末（魁書道會 小学二年）、滋賀心奏（上賀茂小三年）、衣笠誓太（大宮小四年）、曾我美花咲（亀岡市立育親学園小学五年）、梶原碧人（鷹峰小六年）、笠谷菜里（大穴南教室、中学二年）
- ▽金賞 伊藤咲椰（紫野保育園年長） 始め百四十八人
- ▽銀賞 宇津木杏珠（復活幼稚園年少） 始め二百二十四人
- ▽梅花賞（一般） 森中睦（一般） 始め八十四人

天満書 御本殿で入選者の授賞式

天満書入選者の授賞式は、天満宮賞などの特別賞に輝いた子どもや家族らの参列の下、展示最終日の一月二十六日午後三時より、御本殿で行われた。

授賞式に先立ち奉告祭が齋行され、齋主の祝詞奏上の後、参列した子どもの代表が玉串を捧げ、参列者全員が拝礼して、書道の上達・学力向上を家族共々祈った。

この後、権宮司が受賞者に祝福の言葉を述べ、一人ずつ「入選おめでとう」と、賞状と記念品を手渡した。



〈審査員の講評〉

午年とあつて馬(午)の字が多かった。特徴としては、軽やかな作品が目についた。一見、弱く見えるかもしれないが、自由度が高まっているからだろう。がんばりがらめではなく個性を伸ばしているこうという風に育てられてきた子どもが増えてきているからだと思う。

書き初めは、平安時代に宮中で始まった、とされている。そうした意味では、北野天満宮での書き初めは、場所的に見てもオリジナルに近いと感じている。神前書き初めなので、寒い中、神社にやってきて冷たい手をこすりながら仕上げているというところは非常に意味のあることだ。

A1時代だが、子どもたちが新年の願いを込めて、自分の体を使って表現する神前書き初めの持つ意味は大きい。書き初めをした子どもが親になっても、わが子に繋げていってほしい。それが御祭神の菅原道真公がおられた頃から千年以上にわたって伝えられている日本の文化を守ることになると思う。

招福の梅の枝「思いのまま」 人気衰えず

招福の梅枝の縁起物「思いのまま」の授与が、元日から始まり、今年も佳き一年となるよう幸運を呼び込む縁起物を求める参拝者の人気を集めていた。

梅枝「思いのまま」は、境内神域各所で剪定した梅の枝に瓢箪を取り付けた縁起物。瓢箪の中には、菅公を偲ぶ梅花祭で御神前にお供えする特殊神饌「厄除玄米」が数粒入れられており、邪気消除と厄除開運の願いを込めた当宮ならではの授与品。家庭にお持ち帰りいただいて花瓶に挿しておけば、赤や白の梅の花が咲くことから、新年に相応しい正月の縁起物として、毎年人気が高い。



池坊京都支部による献華展

池坊京都支部(城野眞理子支部長)による献華展が元日と二日に神楽殿で催され、初詣参拝者の目を楽しました。

新春を彩る恒例の催しで、立花・生花・自由化で生けられた華やかな生け花が展示され、初詣の参拝者が次々立ち止まり、見入っていた。



新春奉納狂言

猿楽會と茂山忠三郎社中による新春奉納狂言が一月三日、神楽殿で催され、初詣の参拝者を楽しませた。



新春恒例の奉納狂言で、「末廣かり」小謡「土車」「雁礫」「太刀奪」「乳母ケ酒」「福之神」の六番が二時間にわたって次々と上演され、狂言ファンを堪能させた。

新春「そろばんはじき初め」 上達を祈願して百六十人が挑む

新春「そろばんはじき初め」が一月五日、絵馬所に小学生を中心とした約百六十人が参加して行われた。

これも新春の恒例行事で、先ずは参加者と家族らが御本殿に昇殿参拝して学業の向上とそろばんの上達を祈願した。その後、会場の絵馬所に移動し、神職が「天神さま菅原道真公は、古くから学問の神さまとして信仰されてきました。この絵馬所には、ご祈願の成就を願うたくさんさんの絵馬が奉納されています。その中には、算額という江戸時代の算数の絵馬もあります。そんな場所でははじき初め、頑張つて下さい」と、挨拶した。数々の賞をとった実績のある十段三原智輝さん(同志社大一年)が、読み上げ暗算の模範演技をした後、子どもたちはフラッシュ暗算に挑み、その後、長さ五・五メートル、四百桁もあるジャンボそろばんを使い、はじき初めをした。

また、そろばんを知らない四人の園児への体験指導も行われた。



## 雪の初天神、初雪祭を齋行



京都が初雪に見舞われた一月二十五日、大鳥居をくぐってすぐ東側の影向松ようこうのまつの前で午前九時半から初雪祭を齋行した。

初雪祭は、毎年三冬（立冬から立春の前日）までに初雪が降れば、菅公が影向松に降臨され歌を詠まれるという伝承に基づき、古くから齋行されている当宮ならではの伝統神事。

影向松に降臨された菅公の御神前に祭壇を設え、神饌や御遺愛と伝わる硯や筆、短冊などをお供えし、神職が祝詞を奏上した。

この日は初天神でもあり、境内を行き交う参拝者は数多く、参道には隙間無く露天が建ち並び、寒さを吹き飛ばすような威勢のよい呼び込みの声が響き、活況を呈していた。また、受験シーズンに入っていることもあり、御本殿前や一願成就の牛社前には、合格を祈願する若者や、子の受験を支える親たちで賑わっていた。篤い祈りが捧げられていた。



## 節分 境内賑わう

### 御本殿で厳粛に祭典齋行 神楽殿では追儺狂言・日本舞踊奉納、福豆まき

立春の前日である節分の二月三日、御本殿では午前十時から節分祭を厳粛に齋行した。

午後からは恒例の神賑行事が神楽殿で行われ、境内は多くの参拝者で賑わいを見せた

古くから京の都では、節分ゆかりの四社寺に参拝する「四方詣りしほうまい」の風習があり、当宮は最後にお参りをする重要な神社として崇敬を集めている。

こうした経緯もあつて、昭和二十五年、当宮三光門前に祀られている摂社福部社の御祭神「福の神」が、京の都を荒らす鬼を追い払うという「北野追儺狂言」



が創られ、毎年この日に上演されている。今年も茂山千五郎社中によって奉納され、威張っていた鬼が福の神から豆をまかれ退散、神楽殿の周囲で見守る参拝者から笑いと大きな拍手がおきた。

この後、上七軒歌舞会かみしちけんかぶわいの芸舞妓による日本舞踊の奉納があり、最後は舞台に立った狂言師や芸舞妓による福豆まきとなり「福は内!」「鬼は外!」の掛け声とともに福豆袋がまかれた。

この日は曇り空ながら雪の心配のない日和となり、神楽殿を中心に境内一帯は大いに賑わった。



茂山千五郎社中による追儺狂言



上七軒歌舞会による日本舞踊



豆まき

五穀豊穰を祈る大祭 春祭齋行



五穀豊穰を祈念する春の大祭である春祭が、三月一日午前十時から神社役員・崇敬者ら参列の下、御本殿にて厳かに齋行された。

当宮では、他の神社で五穀豊穰を祈る大祭「祈年祭」を、古来「春祭」と称して齋行している。

宮司が祝詞を奏上した後、菅公五歳の時の御歌に曲と舞をつけた巫女舞「紅わらべ」が奉奏された。神職が付歌を朗々と詠じるなか、梅の枝を手にした巫女が優雅に舞い上げた。

この後、宮司をはじめ参列者が次々に玉串を手にし、御前に進み、御祭神菅公に今年一年の豊作を祈り、玉串を捧げた。

今年梅の開花も順調に進み、御本殿前の飛梅も例年より早く開花し、穏やかな気候の中多くの梅花に包まれた境内は、観梅者も数多くみられ、祭典後には参列者もまた梅苑「花の庭」に入苑し観梅を楽しまれた。



祈願絵馬焼納式を齋行

昨年一年間にわたり入試合格・学業向上・無病息災・災難厄除けなど、様々な祈願を込めて御祭神に奉納された絵馬や割符を焼き上げ、願掛けされた参拝者の諸願成就を祈願する祈願絵馬焼納式を、四月三日午前十時半から境内中ノ森広場で齋行した。

新年度を迎えて齋行する恒例の神事で、近年は海外から来宮した参拝者によって奉納された絵馬や割符も非常に増え、約十万枚が集まった。

忌竹にしめ縄を張り巡らした祭場に、奉納された絵馬や割符がうず高く積み上げられ、齋主が祝詞を奏上した後、御本殿にて火打石で鑽り出した浄火で絵馬に点火すると、音を立てて勢いよく燃え上がった。

お焚き上げは午後まで続き、その間神職が交代でお祈りを奏上し、奉納者の願いが叶うように祈り上げた。

この日、焚き上げられた凡そ十万枚の絵馬や割符から勢いよく立ち昇る炎は表参道からもよく見え、参拝者が次々に足を止めて見守り、中には大被詞を奏上する神職とともに手を合わせ祈る姿も見られた。





### 火之御子社例祭

六月一日

「雷除大祭」の通称で親しまれる撰社火之御子社の例祭。火雷神を祀った火之御子社は、御本社北野天満宮鎮座以前よりこの地にあり「北野雷公」と称えられ、雷電・火難・五穀の守護として、朝廷より篤く崇敬された。当日の特別授与品として雷除のお守りやお札を授与するほか、参道には露店商が立ち並び終日賑わう。



### 修学旅行参拝

四月上旬〜六月下旬

当宮は、中学生を中心とする修学旅行の合格祈願の聖地として、毎年御祭神菅公の御神徳にあやからうと多くの昇殿参拝がある。五月上旬から六月下旬にかけては一番のピークを迎え、御本殿や境内で大変賑わう。当宮では、過去に参拝された学校に御由緒や御社殿を解説したDVDを送付し、事前学習に役立ててもらっている。



### 宮渡祭（中祭式）

六月九日

多治比文子と近江国比良宮の神主、神良種（みわのよしたね）の子太郎丸という七歳の少年に御神託があり、文子・良種・北野朝日寺の僧最珍等が力を合わせ、平安京の北西（乾）の北野の地に、菅公の御神霊・菅原大神をはじめめてお祀りしたのが、天暦元年（九四七）六月九日であることから、この日に御本殿において祭典を行う。



### 献酒祭

五月十八日

酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、御神前に新酒を供え、良い酒ができたことに感謝するとともに酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の無病息災を祈願する祭典。室町時代、当宮神人に麴造りの特権（北野麴座）が与えられたことから酒造関係者の崇敬が篤く、関西を中心に約六十社あまりの酒造会社や酒造組合より日本酒の奉納がある。



六月二十五日  
御誕生祭（中祭式）  
大茅の輪くぐり

六月二十五日は菅公御誕生の日にあたるため、御本殿にて御誕生祭を斎行する。  
菅公は、菅原是善公（文章博士）の第三子として、承和十二年（八四五）六月二十五日、京の都で生を享けられた。またこの日は「夏越天神」といわれ、酷暑の真夏をひかえ、氏子・崇敬者の健康と厄除を願い、楼門で、直径五メートルの「大茅の輪くぐり」を行う。



五月下旬〜六月上旬  
梅の実ちぎり

正月の縁起物として新年の祝膳に欠かす事の出来ない、「大福梅」に調製する梅の実摘み取りを、当宮神職・巫女・職員らと、氏子崇敬者の奉仕により、五月下旬から約一週間がかりで行う。  
梅とゆかりの深い当宮には、約五十種・千五百本の梅の木があり、収穫は、例年約三トン程を見込んでおり、採取した後すぐに塩漬され、梅雨明けを待って境内で土用干しを行う。



六月三十日  
夏越の大祓

日常の中、知らず知らずのうちに身に付いた罪や穢れは、古くより六月と十二月の晦日に斎行する大祓式で祓い清められてきた。特に六月の大祓式は「夏越の大祓」と称し、素戔嗚尊に旅の宿を供し、難儀を救った蘇民将来の故事に倣って茅の輪をくぐり、罪や穢れ、厄災を祓う茅の輪神事を、御本殿前中庭にて斎行する。



六月十日  
青柏祭

古代より柏の葉は、御神前への供物を包んだり下に敷くために用いられ、祭事用として神聖に扱われていた。  
当宮でも、この日に柏の青葉に御飯を包む「熟饊」と呼ばれる特殊神饌を御神前に供え、日々の神恩に感謝し、季節の変わり目の無病息災を祈願する。  
また、クルミと梅水を特に供える。



## 伊勢参宮

新年恒例行事の伊勢参宮が、一月十九日に行われ、神社役員・崇敬者など四十一名が参加した。本年は当宮責任役員にして氏子講社長でもある宮階有二役員が参宮団長を務められ、午前七時に北野天満宮を出発。参宮団一行は、まず豊受大神宮、続いて皇大神宮にて御垣内参拝、皇大神宮では参拝後に御神楽を受け、今年一年の平穩無事を祈念した。

その後、二見興玉神社に参拝し、滞りなく全旅程を終えた。この日は終日暖かい気候で天候にも恵まれ、充実した伊勢の旅となった。

全国天満宮梅風会理事会  
並びに京都支部合同会議開く

全国天満宮梅風会（会長・橋重十九当宮宮司）の理事会並びに京都支部合同会議が二月四日、文道会館に約十五人が出席して開かれた。

橋会長が「今年は梅風会の六十回記念総会、そして明年は菅公御神忌千二百二十五年の式年大祭が各天満宮で齎行される。新しい天神信仰の発揚のために心ひとつにして頑張りましょう」と挨拶、次いで次年度総会の当番地京都支部の中小路宗俊支部長（長岡天満宮宮司）が「支部会員一同、力を合わせて皆さんを迎えたい」と挨拶した。

この後、議事に入り令和七年度経過及び収支会計報告案など三件を拍手で承認した。次いで令和九年度（福岡）以降の開催地を確認した。そして京都で開かれる第六十回総会（六月三日、四日の両日）の詳細い次第が事務局から報告され、拍手で承認した。

西高辻信宏副会長（太宰府天満宮宮司）が「慌ただしい中、全国から集まって頂き、議論を深めることが出来た」と、閉会の辞を述べ、会議を閉じた。



## 献茶祭保存会日より

北野天満宮献茶祭保存会の初寄りが一月七日、明月舎において、保存会役員と令和八年度の月釜奉仕者が一堂に会して行われた。

最初に宮司が「新年おめでとうございませう。今年は丙午ということ、昔は出生数が少なくなるなどマイ



ナス的なことを言ったりもしましたが、最近、若い人たちと話をすると全く違っていて、丙午は情熱の年、太陽のように燃えたぎる年だと、非常にプラス志向に捉えていることに感心しました。さて、我々は茶事を通じて世の中の平穩を願うばかりです。本年もよろしく願います」と、挨拶した。

続いて、先代に引き継いで保存会役員を務められることになった畑元章氏が「まだまだ若輩ものですが、今後、長い時間をかけながら勉強をし、少しでも力になれるようにしたいと思います」と、挨拶された。

この後、今年度の月釜奉仕者に委嘱状が交付され、宰領の渡辺孝史氏が「コロナ禍以降、月釜に参加される人が増えてきており、大変ありがたい。今年十二月は今日庵家元の献茶祭ですし、来年はいよいよ千二百二十五年半萬燈祭です。引き続き皆さま方の協力をお願いします」と挨拶され、長谷幹雄氏が乾杯の音頭をとって直会に移った。

京都柔道場連盟、文道会館で総会開く

京都柔道場連盟（山崎立実会長）の令和七年度総会が、三月十四日、文道会館に京都府内の道場主ら二十四人（他に委任状出席あり）が集い、開かれた。

令和七年度の収支決算などを承認した後、昨年八月、京都市武道センターで行われた「第七十回京都柔道場選抜東西對抗柔道大会」の報告が行われ、山崎会長が「皆さんのご協力で東西對抗を開くことが出来た。次の八十回大会に向け組織の補強をしたいので今後ともよろしく」と、挨拶した。

当宮と柔道の縁は、江戸後期、当宮参籠・祈願した紀州藩士が天神真楊流という古武術を創設し、講道館柔道の創始者嘉納治五郎もこれを学んでいるため講道館柔道の

礎としての信仰がある。その縁から京都柔道場連盟が文道会館で総会を開くようになり、今年で三年目。

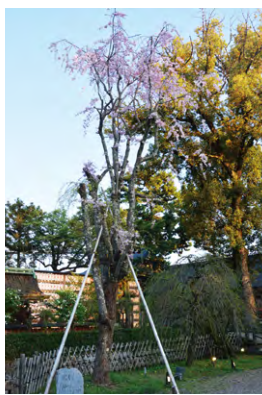


奈良・吉野「高見の郷」より新たに二本の桜が植樹  
かつての桜の名所右近の馬場に新たな賑わい

しだれ桜の名所として全国に名高い奈良県吉野にある「高見の郷」より三月四日、しだれ桜が当宮に植樹され美しい花を咲かせた。植樹されたのは、千本のしだれ桜で有名な「高見の郷」の島崎章会長。

かつて高見の郷上空に龍神を思わせる雲が現れたことに感動した島崎氏は、龍神桜と称して龍神を祭る神社を始め様々な寺社に奉納され、令和六年には当宮に二本の龍神桜を奉納されている。

大同二年（八〇七）、当宮境内に開かれた右近の馬場は、桜狩りが度々行われ、謡曲「右近」でも舞台になるほど桜の名所として知られていた。菅公御歌「東風吹かば匂ひおこせよ梅の花主なしとて春を忘るな」



の梅の歌はあまりにも有名だが、もう一首、「桜花 主を忘れぬものならば吹きこむ風にことづてはせよ」と、桜に思いを託した歌も残っており、菅公は、梅同様

に桜花にも御心を寄せていた。此度の奉納で、高見の郷より奉納された桜は四本となったが、どれも高さが十メートルを超えるほどの立派な桜で、当宮の新たな象徴として参拝者を魅了した。

文化発祥の地で日本文化を存分に体験  
海外からの参拝者をお迎えし、日本の魅力を伝える



御祭神菅公は文化芸能の神として篤い崇敬を集め、創建以来北野の地では多くの文化が発祥し、あ

るいは大きく花開いてきた。昨今、日本独特の風景や文化を楽しもうと、世界中から多くの観光客が日本を訪れており、その中でも京都は特に人気

の観光地となっている。当宮においては御祭神菅公が文化芸能の神として篤い崇敬を集め、創建以来北野の地では多くの文化が発祥し、あるいは大きく花開いてきたという歴史を鑑み、そうして訪れた人々に、より日本文化に親しんでもらおうと、ガイドの案内で参拝してもらえようとするなど様々な態勢を整えてきた。

三月五日には外国からの団体が来宮、御本殿に昇殿しての参拝や絵馬掛け、茶室明月舎にて上七軒の芸舞妓や巫女による抹茶体験や日本舞踊等、日本が誇る文化を存分に体験できるような試みを行った。



「ものづくりTenmanguマルシェ」  
今春も開催 百のブースが並び、大賑わい



「ものづくり Tenmanguマルシェ」が四月五日、右近の馬場中ノ森広場で開催された。

各地で手作り市を開いている「ものづくりCrossroad」(山中陽太代表)の主催によるもので、当

宮での開催は実に十三回目となる。

木工品や革製品、アクセサリーなどを扱う店やキッチンカー等、凡そ百三十店ものブースが立ち並び、中には地元上京区からの出店もあるなど、活気にあふれる会場となり、参拝に来た人々はしきりに店をのぞき、お気に入りの一品を探していた。アコースティックギターの演奏など音楽ライブイベントも行われ、春の陽気な空気の中、終日賑わいを見せた。



スポーツの更なる上達を祈って  
京都市少年フットサルリーグ  
第十一回北野天満宮杯を開催



特定非営利活動法人京都市サッカー協会(亀田忠幸会長)が運営する恒例の京都市少年フットサルリーグ「第十一回北野天満宮杯」が一月三十一日、京都市左京区宝ヶ池フットサルコートにて寒空のもと今年も無事開催された。

小学六年生(U-12)を参加対象とした本大会は、今年で実に十一回目を数える。全十一チームによつて行われた本リーグは数々の激戦が繰り広げられ、修学院フットボールクラブYが見事優勝を果たした。同チームには、トロフィーと賞状、そして当宮から記念品が贈られた。



### 天神さん 思い出写真館



昭和三年春齋行の菅公御神忌千二十五年半萬燈祭では、連日、氏子区域から団体参拝者が繰り込んでいます。この写真もそんな一枚だ。どの町内が参拝し

たのか記録にはなく写真説明も「各所奉祝参拝団」と書かれているだけだ。が、この写真は竹竿の先に「紙屋川町」の文字が入った提灯が吊るされており、はっきりとわかる。

紙屋川町は、当宮のすぐ西側の町で、明治維新までは当宮領だった(日本歴史地名体系『京都市の地名』)というから、半萬燈祭に対する町民の意気込みが違うといえよう。

じっくり写真を見て頂こう。子どもたちはみな同じ格好であり、百年前の祭りファッションなのだろう。後方の大人たちの中には今にも踊り出そうとする人までおり、町を挙げて奉祝する雰囲気伝わってくる。

献詠 濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠まれました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに住吉社・玉津嶋神社・北野社の三社を「和歌三神」として称えられています。

一月「初瀬」

何もなきことの嘉福よ年明けて
水澄むダムは初瀬のまほろば
京都市 若狭 静一
こもりくの初瀬のながれ水脈とめて
京都市 服部満千子
昔やとほき忘れみずかな
京都市 服部満千子
花の香をたよりに訪ぬ古里の
はせの観音ありかたきかな
京都市 塩小路光胤
伏見港神木積みて旗めきて
初瀬にわたる大銅鑼の音
京都市 小山 博子

二月「佐保山」

佐保山の春の花姫咲き揃ひ
花籠のごと大和路をゆく
京都市 小山 博子
問ひかけてみだし今宵も鹿鳴けば
佐保山遠く君を恋ふ歌
京都市 若狭 静一
嵐さへくれなる染めて山桜
昔やとほき佐保姫の袖
京都市 服部満千子
あおによし奈良の都のたつかすみ
佐保山あたりうくひすのなく
京都市 塩小路光胤
佐保山に霞たなびき花の色
うつろふ春を風ぞ知らする
東京都 白石 雅彦
薄霞まとひ行む佐保山の
姫の類染む花ぞゆかしき
京都市 朝比奈崇子

三月「三輪山」

神春の常照りの陽の案内と
三輪山百合の歓迎嬉しく
京都市 小山 博子
ふくかぜに神の息吹のこもるらん
むかしや遠き三輪の大神
京都市 服部満千子
この春も花は咲けるか三輪の山
杉立つ門にも霞たちけり
京都市 塩小路光胤
たまつらの椿の紅し三輪山に
春待つ宵のさきみたまかな
京都市 若狭 静一
三輪山の朝霧こめて立つ空に
神のひかりを人ぞ仰げり
東京都 白石 雅彦
大神に霞たなびく神御衣の
裾に触れなむ山の辺の道
京都市 朝比奈崇子

【評】奈良県桜井市の東北、大神神社がある。三輪明神が住吉明神に送ったともされる歌「わが庵は三輪の山もと恋しくはとぶらひ来ませ杉立てる門」(古今集 など、数々の伝説や物語に彩られながら詠まれてきた。

正式参拝された皆様(敬称略)(一月〜三月)

一月 三日(土) 茂山忠三郎社中
一月 四日(日) 豊田晋他
一月 六日(火) 比叡山延暦寺
一月 十八日(日) 野上八幡宮
一月 二十四日(土) 第一回親子五色百人一首交流大会
一月 二十五日(日) 天神太鼓会
一月 二十六日(月) 皇學館大学学長齋藤平
一月 二十七日(火) 長岡天満宮ウオーキング同好会
一月 二十八日(水) 岐阜県神社庁高山市支部
一月 三十日(金) 名古屋工業大学工学部
一月 三十日(金) 責任役員会
二月 一日(日) 関西医科大学耳鼻咽喉科同門会

二月 一日(日) 皇學館大学
二月 三日(火) 東京海上日動火災保険株式会社
京都本部長 武内健他
二月 四日(水) 全国天満宮梅風会
二月 五日(木) 東山学園
二月 十七日(火) 三越伊勢丹ニッコウトラベル
二月 二十二日(日) コシノジュンコ
二月 二十三日(月) 三菱総合研究所
二月 二十四日(火) 妙光山心行寺
二月 二十五日(水) 大丸京都店梅花祭特別ツアー
二月 二十五日(水) 天神太鼓会
二月 二十七日(金) 初島天神社
二月 二十七日(金) 都會治子他
二月 二十七日(金) 京都ロータリークラブ
二月 二十八日(土) 石川県人会婦人部
二月 二十八日(土) 彦坂良
二月 二十八日(土) 大阪倶楽部美術茶話会
三月 二日(月) 京都芸術大学食文化デザインコース
「いただきますアカデミー」
三月 三日(火) 愛知県神社庁豊橋支部
三月 四日(水) Ukraine IT
三月 五日(木) 第十三回京都子ども将棋交流大会
三月 七日(土) 忠節天神神社
三月 九日(月) 立命館大学ボランティアガイド
三月 十日(火) 京都連歌の会
三月 十五日(日) 久田家
三月 二十一日(土) 松波神社橋重克
三月 二十四日(火) 在日リトアニア共和国大使館特命全權大使
三月 二十四日(火) オーレリウス・ジーカス他
三月 二十八日(土) 刀職者実演会奉納者

挙式された皆様(一月〜三月)

三月 二日 内田 貴士・杏樹 ご夫婦
三月 八日 北村 樹・花音 ご夫婦
三月 二十二日 砂川 弦・桃香 ご夫婦
三月 二十八日 尾ノ井 基嘉・知香 ご夫婦
三月 三十日 宮本 敦・泉美 ご夫婦

新郎新婦様、御両家の皆様のご多幸をご祈念申し上げます。

## 大政所病氣祈願と東門の造営

天正十六年（一五八八）六月、関白である豊臣秀吉の生母大政所が煩った。

これに対し、秀吉は大政所の病氣平癒を願い、北野社をはじめ清水寺・祇園社・石清水八幡宮など京畿の一三の寺社にその平癒祈願を命じた。

その時、秀吉が北野社にあげた願文については以前の社報で紹介したが、ここでは、大政所の病が平癒したならば一万石を奉賀するとし、さらに三年でなければ二年、それも無理ならば三〇日でもその延命を願っている。

大政所はその後もなく平癒し、四年後の文禄元年（一五九二）まで生きる。

では奉加の一万石は実際に北野社に渡されたのか。当社の記録では、秀吉の有力武将であり、当時伊予で一万石を領していた福島正則から、伊予米が渡されることになった。

その詳細は十分にはわからないが、このとき祈祷を命じられた諸寺社の記録からすると、天正十六年七月五日、秀吉の奉行、浅野長吉と増田長盛から、奉加の一万石をもって何らか造営することを求められたようである。

祇園社では「祇園大塔」を、石清水八幡宮では「四方廻廊再興」がなされたようである。

しかし各寺社では、すぐに造営計画が立たなかったようであり、北野社でも、翌天正十七年三月十日に秀吉より、米の早々の受け取りと、造営を急ぐよう命じられている。その時の秀吉の朱印状をあげておく。

大政所殿立願之八木之事、重而被仰出、渡被遣之訖、早々請取、造営急



可相調候、於由断者、追而渡被 下間敷候也、

(天正十七年)  
三月十日 御朱印

北野

惣中

北野惣中に宛てられたこの朱印状で、秀吉は、大政所病平癒の立願にあたっての米（一万石）を渡すことを重ねて命じ、その米を早々に受け取り、造営を急ぎ調えるよう求め、油断したときには渡す予定の米を渡さないと催促している。

この朱印状を受けてか、北野社では、七月に御門（東門）が造営の対象と決まり、十一月に主柱一本が届き、翌年五月に御門用の材木を鳥羽で買い付け、六月五日に御門が立ち、九月一日に御門の瓦に箔が置かれた。現在残る東門（写真）は、この時の造営にかかるものである。



天満宮 歴史の一瞥

京都大学名誉教授

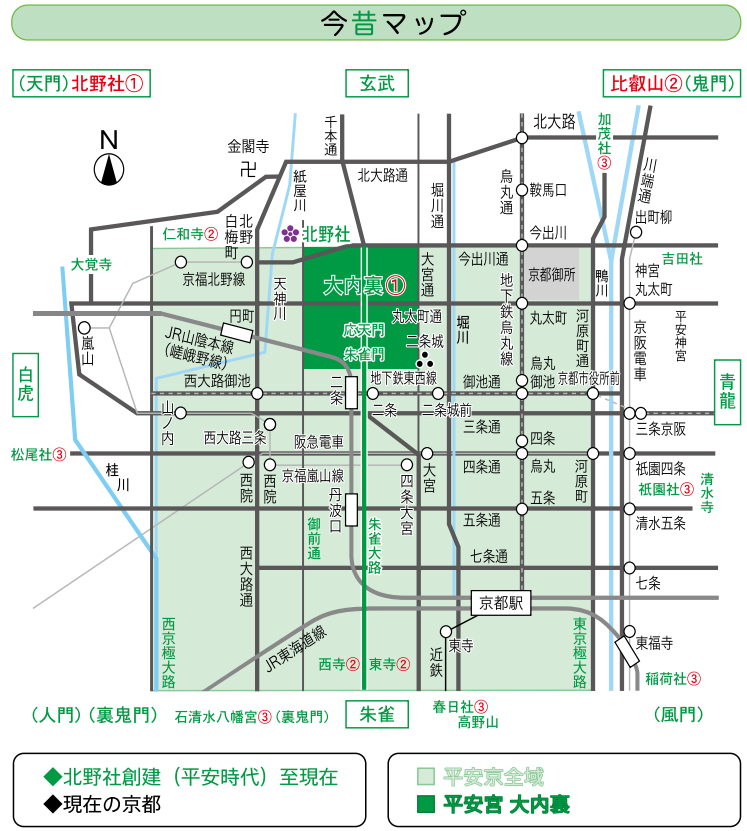
藤井 讓治

# 天神信仰の主な歴史 (注) 歴史事項 北野天満宮事項 伝説事項

菅公薨去後、菅原大神から天門に鎮まり、天神として祀られ、およそ百年かけて醸成し、千年受け継がれる天神信仰

承和十二年	八四五	菅原道真公(菅公)御誕生(父是善母伴氏)	父是善との親子の契り
齊衡二年	八五五	初めて詩「月夜に梅花を見る」を作る	(菅公十一歳)
貞観元年	八五九	菅公元服 文章生を目指し勉学	菅公石清水八幡宮参拝
貞観四年	八六二	文章生の試験に合格	(菅公十八歳)
貞観八年	八六六	比叡山延暦寺円仁の「顕揚大戒論」の序文を書く	(菅公二十三歳)
貞観九年	八六七	文章得業生となる	(菅公二十六歳)
貞観十二年	八七〇	方略試(当時最高の国家試験)に合格	(菅公四十二歳)
仁和二年	八八六	この間少内記(詔勅の起草係) 式部少輔など任ぜらるる(菅家廊下を継承)	(菅公四十四歳)
仁和四年	八八八	讃岐守に任ぜられる	(菅公四十六歳)
寛平四年	八九二	これにより宇多天皇に挙用され政治の刷新を図ると共に平安京文化の礎を築く	(菅公五十五歳)
寛平五年	八九三	従四位下『三代実録』『類聚国史』の編纂に着手	
寛平六年	八九四	参議・式部大輔・左大弁を経て勘解由使長官	(菅公五十歳)
寛平七年	八九五	遣唐大使に任ぜらるる	
寛平九年	八九七	渤海客使を接待し詩を交換 中納言従三位	
昌泰二年	八九九	正三位に叙し中宮大夫を兼ねる	
昌泰三年	九〇〇	菅公右大臣に任ず 位人臣を極める	
延喜元年	九〇一	『菅家文章』『菅相公集』『菅家集』を献上す(三善清行、菅公に辞職を勧告)	
延喜三年	九〇三	一月二十五日大宰権帥に左遷される 大宰府南館で謫居の日々(菅公五十七歳)	
延喜五年	九〇五	詩集『菅家後集』を京の紀長谷雄に送る 天拝山で「天満大自在天神」となる	
延喜六年	九〇六	二月二十五日 配所において薨す	(菅公五十九歳)
延喜五年	九〇五	味酒安行 大宰府政庁の鬼門に御墓所・祠堂を建てる(現在の太宰府天満宮)	
延喜六年	九〇六	門弟許され 京の都西ノ京にて菅公神霊を祀り始める	
延喜五年	九〇三	菅公を元の右大臣・正二位に叙し 左遷の宣命を破棄す	
天曆元年	九四七	多治比文字 比良宮神官の子太郎丸らに神託(朝日寺の僧最鎮)	
天曆三年	九四九	村上天皇により平安京の天門北野に鎮座す	
天曆三年	九四九	村上天皇御鳳輦御寄進	
天曆三年	九四九	村上天皇勅命により難波宮の地に菅公神霊を祀る(現在の大阪天満宮)	
天曆三年	九四九	右大臣藤原師輔 北野の神殿を増築し神宝を献ずる	
寛和二年	九八六	慶滋保胤「文道之祖詩境之主」の願文を草す	
寛和二年	九八七	一條天皇より北野社官幣に預り「北野天満大自在天神」「北野天満宮天神」の神号を賜る	
正暦四年	九九三	北野社は官幣社となり勅祭北野祭が斎行される(江戸末期迄)	
寛弘元年	一〇〇四	一條天皇御鳳輦御寄進	
寛弘元年	一〇〇四	左大臣・正一位 次いで太政大臣を追贈される	
康和三年	一一〇一	一條天皇初めて臣下を祀る北野社に行幸 以後歴代天皇の行幸に与る	
建久五年	一一九四	北野社が国家の大事を祈る二十二社に臣下に異例の加列 大宰権帥大江匡房により大宰府・安楽寺にて神幸式大祭が斎行される 『北野天神縁起』建久本成る	

承久元年	一一一九	『北野天神縁起』承久本成る
応永八年	一四〇一	北野経王堂成る
応仁元年	一四六七	室町幕府の崇敬で「北野祭」隆盛を極めるも応仁の乱より途絶える
天正十五年	一五八七	「北野大茶湯」を豊大閣・千利休居士ら催す
慶長八年	一六〇三	出雲阿国が北野境内で初めてややこ踊り(歌舞伎踊り)を公演(歌舞伎発祥)
慶長十二年	一六〇七	豊臣秀頼公 北野社社殿を造営する(慶長の大造営)
江戸年間	後期	後西天皇御宸筆勅額「天満宮」御寄進(三光門掲額)
元治元年	一八六四	北野をはじめ太宰府・大阪・湯島など主要な天満宮に「和魂漢才碑」建立
慶応四年	一八六八	勅命により北野祭臨時祭再興
明治四年	一八七一	神仏判然令(神仏分離)により 天台宗比叡山延暦寺のもと社務を統括していた曼殊院との凡そ千年間に亘る神仏習合が終わる
明治三十五年	一九〇二	北野天満宮 臣下で異例の官幣中社となる
昭和二十七年	一九五二	太宰府天満宮 国幣小社となる(のち官幣中社)
平成十四年	二〇〇二	菅公千年大萬燈祭を斎行する
令和二年	二〇二〇	菅公千百年大萬燈祭を斎行する
令和九年	二〇二七	例祭(かつての北野祭) 斎行に伴い 比叡山延暦寺と共に北野御霊会を再興 菅公千二百五十年半萬燈祭を斎行予定



注① 国都平安京大内裏で千百年間天皇の祭政が執行され、日本文化が育まれてきた。  
注② 平安京・大極殿の天門に北野、鬼門に比叡山、宇多天皇創建の仁和寺などが精神的中心となって熟成の礎となった。  
注③ 八幡さま、稲荷さまを始め多くの神仏は国都平安京(元の国都平城京)の近畿より全国に伝播。



# 紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、  
紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな』の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であつたと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



## 火之御子社例祭 六月一日

# 雷除大祭

かみなりよけたいさい

### ●特別授与品の頒布

雷除けのお守・お札を開門より特別に授与致します。このお札は、「北野千体札」と称され、古くはこの日限り、千体限定の授与でしたが、近年はこの日より一ヶ月間授与しており、郵送での授与も受付しております。



## 六月三十日午後四時

なごしのおおはらえ

# 夏越の大祓

### ●茅の輪をくぐって、無病息災を祈願！

午後四時から神事を執り行い、神職とともに茅の輪くぐりを行います。茅の輪をくぐり、半年間知らず知らずのうちに身につけた厄難を祓いましょう。



どなたでも神事に参加できます。

### ●人形・車形でお祓いをしましょう

人形にご家族それぞれの氏名・年齢を記します。次に人形で身体を撫で、三度息を吹きかけます。人形は祭礼日まで当宮に納めて下さい。交通安全祈願として、車形もあわせて納めましょう。

※氏子区域の皆様には、氏子総代を通じて形代をお配りします。

### 御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。境内特別ライトアップ!

### 定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。



右記QRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込むと北野天満宮の最新情報にアクセスできます。上記の各SNSでもご案内しております。

### ●アクセス

名神高速道路南インター又は東インターより約30分  
 第二京阪道路鴨川東インターより約20分  
 JR京都駅より市バス50系統  
 JR・地下鉄二条駅より市バス55系統  
 JR円町駅より203系統  
 地下鉄今出川駅より市バス51・203系統  
 京阪出町柳駅より市バス203系統

### ●参拝時間

■7時～17時  
 但し、毎月25日（御縁日）は6時30分から20時  
 ※青もみじ苑・もみじ苑・梅苑「花の庭」のライトアップ期間や正月等は夜間も開門しています。  
 最新情報はホームページ等のお知らせ記事をご覧ください。

■文道会館・授与所 受付時間 9時～16時30分

京阪三条駅より市バス10系統  
 阪急大宮駅より市バス55系統  
 阪急西院駅より市バス203系統  
 京福電車白梅町駅より徒歩5分  
 いずれも北野天満宮前下車すぐ

### ●御祈禱

■受付時間 9時～16時  
 ■受付場所 御本殿東側授与所

### ●駐車場

毎月25日は、御縁日のため駐車できませんので公共交通機関でお越しください。